

徳島の剣道

第11号



徳島県剣道連盟

榎雪井後先生頌徳之碑

場所 板野郡吉野町大字柿原字広永一三五

井後芳仁屋敷内 北向き

和泉砂岩 法量 高さ二米八〇、幅一米三〇

題額 枢密院顧問官正二位勲一等侯爵

蜂須賀茂韶

文並書 岡本斯文

建立 大正三年（一九一四）

写模雪 天保八年（一八三八）阿波郡市場町大字香美（現善入寺島 藤大夫須賀）の原土佐藤篤信の三男として生まれる。のち板野郡吉野町柿原原土井後信止の後嗣となる。萬延六年（一八六〇）江戸伊庭軍兵衛の門下となりて、劍道奥秘を極めて帰り、維新の初め屢々藩主に従い京都に上り、或は会津征討總督聖護院御供人となった。維新後郷学校助教、学区取締役、市場町外三村の戸長等となり、治政に盡す。

晩年政治に関せず専ら大日本武徳会徳島支部劍道教授となり、長兄壺三郎、次兄半作と共に徳島の劍道の基礎を作る。

明治四十年（一九〇七）、七二歳歿す。門弟は徳島県一円、東讃より来り千余人に及ぶという。

神全塾武田家に伝わる関口流の野稽古 (野試合) について

坂本 裕 二

美馬郡脇町字猪尻の武田家は代々徳島藩家老稲田家に仕え、神全塾を開いて家臣団に兵法、学問を教えていた。「徳島の剣道」十号に紹介)

今回は、神全塾に伝わる資料の中から独特の稽古法である野稽古(野試合)の概略を紹介する。

はじめに

剣術は、実戦的体験から発生した戦闘技術である。剣術は室町期以後、流派として技法の体系を整えるとともに、流派の形によって技術を修練し、これを次の世代に伝達する組織を作りあげた。これにより技法はますます精緻になり、技の高度化と洗練化に重きをおき、実用的を肯定しながら、しだいに非実用的な芸道的な方向を追求するようになった。

こうした形式化した剣術への反発から生まれたのが「竹刀打ち合い稽古」である。これは従来の稽古法とは全く違って防具をつけて自由に竹刀で打ち合う稽古で、旧来の形稽古にかわって広く行われるようになった。さらに伝統的な技とは全く異なった竹刀での打ち合いを前提にして相手を効果的に打突するための技、即ち「試合に勝つための技」が考案されるようになり、このような流れの中で、「現代の剣道」の原形が生まれたのである。

一方、武術は武士階級の実用術であり、彼等の専用物であったので、非公開のうちに実践され、伝承されるものと考えられていたが、近世後期になると剣術は武士階級のみでなく庶民階級も参加して行われるようになった。またこれにもなって従来は禁制であった他流試合も次第に活発に行われるようになった。

以上は剣術の全国的な流れであるが、「伊予史談文庫」の蔵本に「撃術試合覚帳」という剣術英名録がある。この記録によると、

阿波国吉野川沿岸地域の在郷武士に剣術家多く、脇町は全国的にみて早くから剣術が活性化し、他流試合をした地域で、その中でも武田家の関口流は他の流派より積極的に活動した代表的流派であったことが記されている。

師家武田の関口流の活性化について(資一、二)

武田家は徳島藩主蜂須賀家の家老稲田家の家臣である。従って藩上に対しては倍臣である。武田家の八代目旨助(一七・七・八九)の時代から関口流をはじめ代々各種武術、軍法を門弟に教授していた。その門弟たちの大半は近郊に住む稲田家臣であった。稲田氏の本拠は淡路の須本であったので、上級家臣は須本に居住していた。二好、美馬、麻植に住む家臣は譜代家来六百五十三名と奉公人、千百十九名で構成されておった。蜂須賀家の家臣の支配系統とは全く違い、武上といながら家臣団は一般庶民とは全く変わらない生活をしていった。

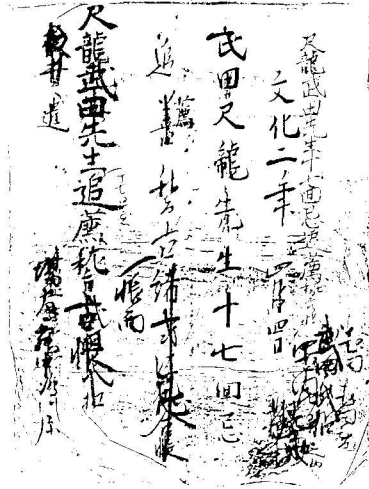
武田家の関口流剣術をこれらの門弟を教えるに武術の論理的理合を重きにおかず、試合稽古形式を重視し、寛政期(一七四九—一八〇〇)より他流試合を積極的に取り入れ、さらに特徴的稽古の形態は野稽古(野試合)をした。

野試合について

武田家の野試合をした記録は文化二年(一八〇四)より慶応元年(一八六五)までたびたび行った記録があるが、最も古いのは「武田尺龍先生十七回忌追薦稽古帳面」である。これは文化二年四月四日に武田宗作(一七五六—一八三四)が先代旨助(尺龍)の十七回忌追善供養のため、舞中島の川原で行った野試合の記録である。

この資料により野試合の様態を記すと、

尺龍武田先生十七回忌追薦稽古帳面



文化二年(一八〇五)
四月四日
武田尺龍先生十七回忌
追薦稽古帳面
於舞中島川原

38cm × 28cm

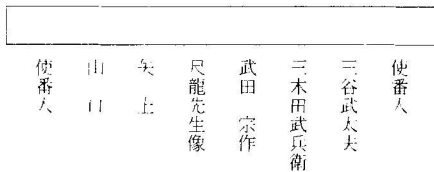
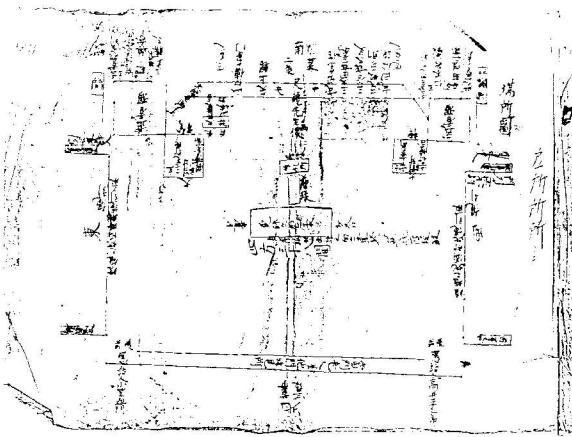
一 稽古会場とその内容



武田家の南側には吉野川が流れ、この吉野川には舞中島という大きな中州があり、ここは両岸から見晴らしがよく野稽古するには最適の場所である。(資

この中州に縦、横、二八間(六八・四メートル)に幕を張り、東西は縄で区切り、南側の上座に尺龍先生の画像、その左右に師家や高弟、役員席を設け、役員席の左右には演武者の控所の「武者物裁判」大目付一の席、

の「武者溜」を設け、この前には各々の役員、中央の広場には薄縁(敷物)を敷いた先師尺龍先生を拝礼する場所があり、



東

西

当門老人并他門拝見所

北

この前には免許者の関口流の形を打つ薄縁を敷いた場所が設けられ、終われば取り払れるようになっていた。さらに北には関口流の老人と関口流以外の一般席が設けられている。この席があることは、当時武術は秘密主義的な性格が強く、自流以外の者に技を見せることは固く禁じられた閉鎖的時代、早くも公開性を以て行われたことは特筆すべきことである。この会場は計画的に設営され、演技者と観衆とが明確に区別されている。このことは、野試合に参加する人々と階級や地域の中に、競技的に実行する伝統や雰囲気と存在していたことを示すものである。

会場の図面

一 野稽古の運営

当日の役割は非常に細かく計画され、次のように、

- (一) 大目付 上座東西主副各一名で試合者の監視、指導を司る。
- (二) 目付 試合場中央口床机に腰をかける。二名 判定を司る審判員。
- (三) 武者惣裁判 上座東西主一名、副二名 試合者の監視、指導する。
- (四) 応話人 南面拝見所二名 見学者の接待
- (五) 音具の係 人数不明 試合開始の合図、終了の合図、貝、太鼓、拍子木で行う。

(六) 記録 上座東隅二名 記録員

(七) 使番 上座隅二名 使い番 補助員

(八) 武者繰出し 武者引廻し 各陣の後方東西二名 試合者の動きを指示する進行係

(九) 当千 人数は二名と六名 多勢を相手に試合う。(元立ち)

(十) 用具 人数不明 竹刀の破損を監視、竹刀の交換
役員の数・役目も定めて、運営された。

試合の際の体形や参加者の組合せも前以って周到に計画されていて、会場の設営も組織的に準備されたことがわかる。この役割の中で最も注目されることは「目付」の存在である。

「目付、大目付、武者惣裁判」の権限や職掌は明確に判明し難いが、目付は高弟となり、試合者の中央で床机に腰かけ、一採ヲ持テ勝負ヲ分ツ 負けタ方ハ采ヲ以追、相討チノ時ハ地ニ伏ス」とあり、試合の最も重要な打突を判定したものである。

試合の審判を第三者がすることは、試合者に勝敗を明確に宣告し、観衆にも勝敗を知らせる役目をもっているが、他流試合もあるので、その流派のそれぞれの特技があり、これらをもって、有効打突、禁止条項等定めておく必要がある。これらについて明文化した資料はないが恐らく約束事として定めて実施したと思われる。

天保年間(一八三二—一四五)に「検証役」という職名で試合を審判したという記録がある。これが資料にある初見であるが、この脇町で「目付」によ

り文化二年(一八〇五)の三十年前、既に審判者により審判されたことは従来の説を大きく塗りかえることになる。

三 試合の形式

試合はまず武者揃(演武者一同集合)が行われ、続いて師家や高弟により関口流の形、さらに参加者一同により形をうち、形の演武終了後先師尺龍先生画像に対する礼拝が行われて式が終わり、これより五種の体形(陣形)をとって仕合(試合)が行われた。

一 武者揃終着儀

但 東之口より入帳(付西口、可引取)

第二

武田宗作才助麻上(下)表、長造終儀之前(向礼拜)

第三

三谷武夫(武田修謙表)礼拜同上(下)表

第四

山口伝右五門尾形自助(太刀表)

第五

振浦太夫(太刀表)太刀表、太刀表

但し三木田武市兵衛痛処有之(列居而已)

終太鼓打

付タリ

免許之面々麻上下取(野袴)

二成

次日付惣裁判(諸人等老人痛所等)拜見所(列居門輩拜)

礼

但、一人宛

像前(進)

像前(進)

像前(進)

像前(進)

像前(進)

像前(進)

像前(進)

像前(進)

像前(進)

像前(進)

三 輪 懸

当千（元立ち）を囲んで円陣となり、円陣のもの一名ずつ出て、当千を戦う。当千六名は適宜交代する。輪懸には日付（審判）はおらないので懸稽古と思われる。

輪懸 貝鳴テ外ニ付拍子来るテ開始



勝負終テ大鼓ヲ打兵士可テ外揚

輪懸 貝鳴テ列ニ付拍子不鳴

開始



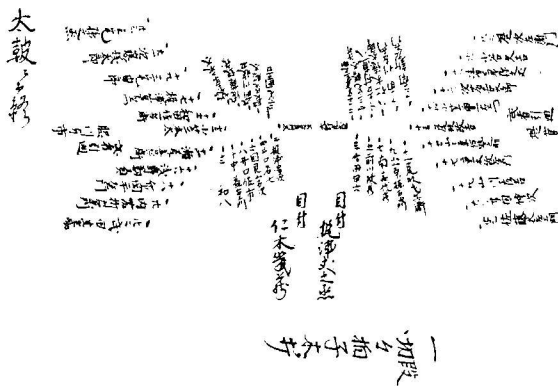
正當千
堤次左右工門
内藤折右工門
升園平左工門
三宅孫之丈
佐藤太左工門
青木磯之助

勝負終テ大鼓ヲ打兵士可テ外揚

四 魚鱗之備 相懸式本仕合引去組合

東西各二三名が魚鱗の備えに付き、前方より順次出て試合う。武者引廻しが東西一名 日付（審判）二名 二本勝負

急辨之備相懸式本仕合引去組合
貝鳴備三付拍子木ニ戦始



貝鳴備三付拍子木ニ戦始ヘシ

武者引廻

堤 菅左工門

三宅 藤太郎
三宅 豊之助
大野 光蔵
目付 仁木
幾蔵

目付 仁木
幾蔵

三谷武門太
目付 仁木
幾蔵

三宅 國吉
三宅 藤太郎
三宅 豊之助
大野 光蔵
目付 仁木
幾蔵

武者引廻
脇川 与市

大鼓ニ而終

禁戒

大に秘古方當日至、西小指南技借貸、貸借法なき、
 人必道を一指の借付、指南技有、人別持を可、
 一秘古中、隊也、乱之、或を可、禮ヲ、勸者有之、
 裁判之酒を其時、未之取、或之所、不、
 高古、誼、大、
 大、
 大、
 大、

東西武者も利之由

これは野稽古演武者の注意事項で、試合や審判（日付）に対する規則ではない。競技化するには規則が不可欠である故、経験的に形成された基準や共通する規則によって審判され、勝敗が判定されたと考えられる。

「大禁」の項に「過酒」があげられているが、この会場で少量の飲酒は許されたと看做される。

おわりに

吉野川中流脇町附近は関口流以外に丹石流、貫心流、竹ノ内流等の剣術が盛んに行われたが、武田家の関口流が最も門弟が多く隆盛を極めた。その要因は、門弟は稲田家臣で、武士というものの殆ど庶民と変わらない家臣であった。従って蜂須賀家の武士と異なって儒教的倫理観や宗教（禅宗）の戒律に縛られず、自由で大らかな雰囲気の中で、種の楽しみとして行われた。

関口流師家武田の代々の師匠は、この地域の立地条件、人的要素を踏まえて試合形式の稽古を重視し、公開を原則とした野試合を積極的に行った。しかも、これは周到に計画され、組織的に、試合は実戦を想定した陣形をとっていたが、対一の試合で、勝敗は日付（審判）が判定する等合理的に行った。これら運営、指導の妙を得て武田家の関口流が栄えたものと思われる。

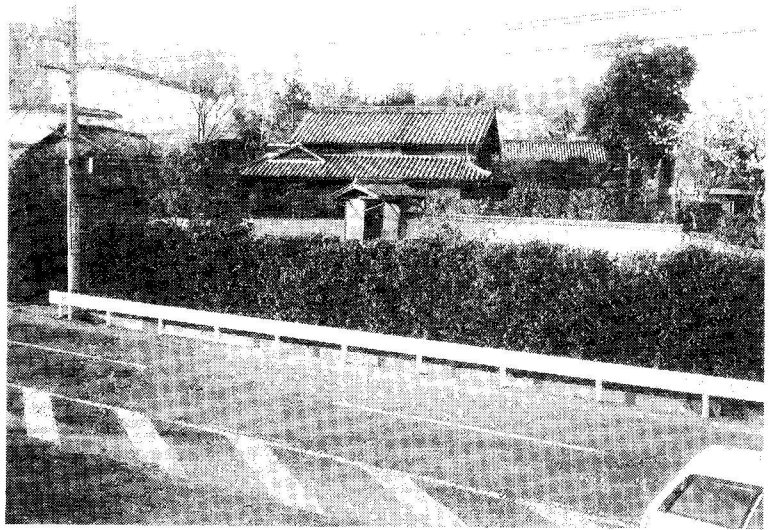
関口流師家武田は斯道発展のため、今より二百年前の文化二年（一八〇五）に行った運営、指導要領が現在の剣道人口減少の傾向がある時「他山の石」となれば幸甚である。

以上

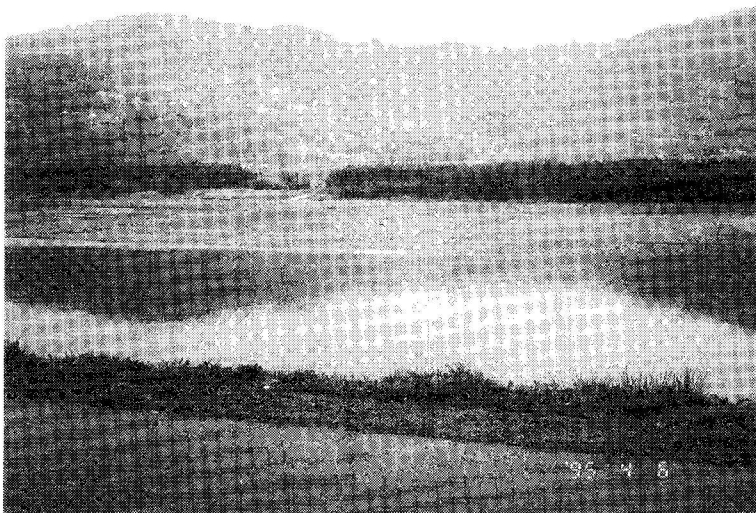
後記 最後になりましたが、美馬郡脇町猪尻西分、〇五二武田誠夫氏威の資料」の提供を賜り記述致しました。厚くお礼申し上げます。



資料一
神全塾武田家の門



資料二
武田家全景



資料三
野試合の行われた舞中島の川原

わが郷土の剣豪紹介(各支部より)

〈板野東支部〉

山田 武雄

(教士七段)

(昭和五十五年一月二日没)

昭和六年の満州事変から終戦までの間、青年団活動が下火となり剣道界も低迷を続けた。戦後も進駐軍の命令によって大日本武徳会は解散し、剣道は柔道とともに禁止された。

その後、スポーツとしての剣道が認められるようになり、昭和二十五年十月に松茂町でも剣友会を組織し、山田武雄先生を中心に会員の活躍が町内はもとより県内でも有名となった。

松茂町広島に生まれた先生は法政大学高等師範部において、範十高野佐三郎先生の指導を受け、卒業後は鳴門高等学校に永年奉職し剣道教師を兼ね生徒の指導に尽力した。

徳島県剣道クラブでは副会長として、徳島県剣道連盟では審議員、板野東支部顧問などを歴任し重要な職責を果たした。

昭和三十五年、徳島県で行われた四国大会へ選手として出場し、初優勝をするなど県下支部大会においても常に優秀な成績を収めた。

特に、剣道の指導は学生を中心に若い青少年の人間形成に努力すると共に、県下剣道界の発展に尽くし多大な功績を残した。

また、先生の偉業を後輩に伝える目的で松茂町内の小・中学生を集め、山田武雄杯争奪剣道大会を昭和五十六年より毎年開催している。

〈阿波支部〉

一 村 喜佐男 剣道教士七段

阿波郡市場町大字市場字岸の下二〇二

大正元年(一九一〇)八月一日日生

阿波支部 坂本 裕 二

先生の剣道歴は古い。少年時代から剣道を始め、昭和五年(一九三〇)板野郡土成町秋月に道場を持ち多数の門弟を教えていた、阿波国文武館主剣道六段教士森本義男先生の道場に入門し、毎日四キロの道を通い熱心に稽古を行いしだいに実力をつけた。その間各地で催された演武大会にも積極的に参加して常に優秀な成績を挙げた。

その後陸軍に入隊し、日華事変に従軍して北支の各地を転戦した。昭和十五年内地に帰還し除隊後青年学校軍事教練指導員となり活躍する。終戦後、自動車運送業を始めた。

ところが、戦後マッカーサー指令によって武道は全面禁止されたので、再開されるのを待ち続け、人日をはばかりながら稽古した。昭和二七年解禁されるやいなや水を得た魚のように、早速同志と剣道の復活を図り、さらに同好の士を集めて、阿波郡市場町の八幡の八幡神社の拜殿を道場にして稽古を始めた。この道場は創立が早く阿北の剣道の拠点となり大勢の剣士が集った。

この道場で先生は熱心に稽古したので三、四、五段と昇段した。また、徳島県剣道連盟の設立や、その下部組織である阿波支部の設立にも大いに尽力して、阿波郡剣道の戦後復活の先駆者の一人として大いに活躍した。

戦後の青少年健全育成に剣道の果たす役割を痛感し、市場剣道教室の設立にも参加し武道館の建設にも協力、昭和五一年(一九七六)十月に剣道教室を開室して、今日の市場町剣道発展の基礎を作った。

先生の剣道に対する情熱は多大なもので、いつも熱心に研究し、理に叶った指導法、特に道場における姿勢、態度は若手指導者の模範となるように率先垂範した。

昭和五六年教士号、昭和五七年七段位に昇格されて、永年の剣道に対する努力がここに花を開いた。

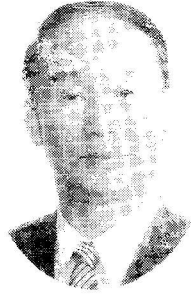
現在先生は八十余歳になるが、尚お元気で徳島県高齢者剣友会理事の要職におり、高齢者剣道の発展のため尽力されると共に稽古に励み、毎年行われている、東京武道館の全日本高齢者剣道大会に出場している。

〈丹生谷支部〉

助岡克則先生

（丹生谷支部長）

古田 租



那賀郡鷺敷町大字百合、百合一と書いてももえ一と読む。鷺敷町の西部地区に位置し、国体カヌーの競技場とかB&G海洋センターのある所である。ここは、また丹生谷剣道のメッカとも言うべき、故山家雪藏先生の振武館道場の所在地でもある。

助岡先生はこの振武館のすぐ近くで、昭和三年四月十三日父助岡徳太郎、母キミエの長男として生まれ育った。助岡家は古くからの名門で、屋号を「窪」と呼ばれ現在でも百合では、クボ一と呼び名で通っている。

太閤秀吉時代四〇〇年昔文祿四年の路で、窪助太郎という人が氏神さまの御殿を一人で遷宮（改築）奉納したと記した棟札が残っている。これは助岡先生の先祖のことで、長く統っている旧家として知られる。

亡父徳太郎氏も人格者で名が通り、住民の信望厚く長年町議会議員の要職にあった。そのような環境で育った先生は、阿井小学校卒業後現在の日和佐高校の前身海部中学校に進み、そこで初めて剣道を習った。剣道の手ほどき

を受けた恩師は、当時名剣士といわれていた浅井貞一先生であった。剣道の静から動、動から静への変幻自在に魅せられた先生は剣道に青春の血をたぎらせた。体格はあり何時も気力気迫は満ちており、師弟の間は阿吽の呼吸の仲であったので、技量はめきめきと上達し、五年間修業の後卒業時には、普通部員でも初段がやっとの時代に三段を認定された。

戦後剣道が再出発してからは故山家先生の門下となり、小学校の講堂で稽古をし、時には丹生谷各地に出向き、昭和三十二年冬振武館道場開館後は、山家先生につき要領よく稽古に励んだ。仕事の関係上強い稽古が続けられない時期もあったが弛まぬ努力の結果、昭和五十二年六段、同五十五年教士号を受領した。豪快な面打ちもさることながら得意技は押さえ小手であった。相手の中心を攻めていて相手がたまらず打ち込んで来る所をすかさず、小手を押さえ打つのである。試合ではよくその技で勝を制していた。

昭和四十年頃より十数年間は毎日のように鷺敷中学校へ教えに行き熱心に指導された。先生は相撲界でいう「親方」的存在でその指導力は抜群であった。鷺敷中学校の黄金時代を築き鷺中は何時も県下で三指に数えられる程になった。

昭和四十六年全国大会出場。大将 延博文、副将 大岡拓也、中堅 岡田尚典、次鋒 岡川雅裕、先鋒 谷長志で臨みベスト8戦で西大寺に一木負けした。その西大寺は優勝した。

昭和五十一年全国大会出場。大将 福多士郎、副将 新居泰司、中堅 森広、次鋒 仁沢順一、先鋒 大津裕哉で臨みベスト16で惜敗した。

その他四国大会出場三回。愛媛、高知、香川などと輝かしい記録が残っている。これみな先生のおよき指導の賜だった。

先生は若くして地方自治の道を歩まれ、昭和三十四年から昭和四十九年の間、町議会議員としてその間副議長、議長職をつとめられ、昭和五十一年から昭和五十七年十一月の間、鷺敷町農業協同組合長として産業の育成に力を注ぎ、いちご栽培を始め今日の基を開いた。

昭和五十八年から現在四期目の鷺敷町長職にあり、次のようなことを強力に実行している。

過疎の山村に上水道、下水道を設置し、若者定住構想として、宅地造成と分譲、大塚テクノ棟、大塚製菓棟、太龍寺ロープウェイ、工場誘致などと数え切れぬ程の事業を次々に実施し、町の活性化と若者の定住に力を注いでいる。

平成七年度全国都道府県剣道大会に徳島県代表選手五名の内、近藤 亘七段、福多雅英六段、臼木 崇六段と鷺敷町出身者が三名も選ばれ、しかもみな先生の教え子となれば先生の剣道にかけた夢がいま大輪の花開き定めし嬉しい事だろう。

懸待一致は剣の極意、その極意で政治に取り組んでおられる先生の、益々のご発展を剣士一同心からお祈りして止まない。

人物紹介（各支部より）

〈鳴門支部〉

ロルフ プッセル 塾経営（二十六歳）

鳴門支部 前 林 利 雄

彼はドイツ連邦共和国北部に位置するニーダーザクセン州リューネブルク市出身である。第二次世界大戦後東西両ドイツに分轄され西ドイツとして英国、米国の管理下となる。戦前はKnight（騎士）として拡大な土地を領有する富豪の家柄であった。

一九六八年六月五日ウド・プッセルの長男として出生。少年期は柔道、空手道と稽古に励み、一九八四年十六歳の時イギリスへ英語の勉強に一年間留学した。

青年期、ドイツで日本文化を紹介するお祭広場で居合道の実演を見て、これだと直感。早速近くの個人道場で神伝流抜刀術をブッケイ居合道五段に二年間師事するなど、激しい格闘技が自分自身の性格に合っており好きです、と動機を語る通り日本の武芸に大変興味をもっているようである。

ドイツのハンブルグ大学に二年間学び、一九九二年六月修了後来日し、同年七月にアメリカのバシフィックウエスタン大学に移籍する。

リューネブルグ市と姉妹都市として友好関係にある鳴門市に水住を決意、プッセル英会話英語学習、ドイツ語教室と中学、高校、大学、及び一般と多数の塾生の指導をする傍ら教育学博士号の取得の論文に余念がない。

九九四年五月より七段教士佐藤勇先生指導の下に週三回の早朝稽古の一員として加わり修練に励んでいる。剣居一体、持ち前の真面目さとやる気、根性でめきめきと上達、初段を目指し意欲を燃やしている。どうか楽しく剣

道の本質を忘れることなく、長く剣道を続けてほしい、と期待をしている所である。

〈小松島支部〉

飯沼一日先生を讃う

――坂野剣道教室を育成した情熱の剣士――

小松島支部長 田 村 直 一



先生と私の交わりは二十年前からで、若い先生の情熱は剣道修業に志向された。忙しいお仕事の合間には、専ら剣道の技に、修練に、心を集中された。その頃から同時に古い伝統のある小松島市坂野少年剣道教室を再興、新しく同志を集めて創立され、先輩であられる榎福 稔先生のご指導も得られ、年月を重ねて立派にクラブの充実が期せられ関係方面のご支援、多くの方々のご協力も得られるに至って、その存在は小松島市内剣道教室の中でも人員、内容、試合成績においても上位、優秀で自他共に認められている。

何ともあれ、戦前からの伝統のある坂野のクラブは多くの地域の人々の厚情に支えられ、会員の献身的努力もあって毎年度少年剣道錬成大会を独自の力でもって開催され少年剣道の振興と親和発展に多大の寄与をなされている。このことは小松島支部にとりましても大変心づよいことであり坂野のお御嶽さんの夏の剣道大会の永い永い流れの中に百年近くこの行事が引きつがれ、今日までつづいていることは誠に有りがたく歴史的にもその意義がふかいのである。

飯沼さんご家族（ご子弟）も皆剣道一家で、「常在剣道」の家訓の中でよく精励されている。先生は家業が大変忙しいのであるが、剣道大会のお世話

や地域少年剣道の振興については常に自分より先にそのことへのおもいやり周囲への心配りと大会の成功を身をもって考えられ企画され、どこまでも協力を惜しまない。「剣は人なり」と言いますが、正にそのとおりであられるわけで、今後益々の白己修業と地域剣道教室の振興にご助力を頂き共に小松島支部事業に、これからもご支援をお願いしたいものである。

先生の技は、先の技であるが、間合をよくはかつての格闘は後の先に業が「サエ」ている。小松島支部の役員（理事）として、また小松島市体育協会役員としてもご活躍下さっている先生の「健祥」と今後の発展をご祈念申し上げます。

飯沼一日先生の少年剣士によせられる言葉

剣道で何を学ぶか、家庭のなかでみんなで考え一常在剣道一の心構えを知り、少しでも多く実行してゆくことが大切だとおもう。

〈板野東支部〉

人生の目標は、「守・破・離」である。

原 田 進 (剣道五段 四十九歳)

板野東支部 米 田 利 彦

昭和二十年松茂町に五人兄弟の二男として生まれました。先生と剣道の出会いは近所で剣道をしていた先輩に誘われ、撫養高等学校に入学してからです。稽古は毎日放課後に二時間行い、冬は素足でマラソンをし、近くの金比羅神社で相撲をとって身体を鍛えました。

その当時、堀江幸夫先生（範十八段）、岡本憲三先生（教士七段）などの厳しい指導を受け入部時に五人いた同級生が一年を過ぎると、二名になっていました。先輩には名選手が多く、現在でも剣道界で活躍されており、高校剣道では強豪であった学校ですが、原田先生が入部した時にはすでに下降ぎ

みにあり、出場する剣道大会では良い成績を残すことができず苦しい稽古の毎日が続きました。

県内では少年剣道が盛んになり県大会が開催されるようになった頃、松茂町でも教育委員会の主催で松茂少年剣道教室が開講されました。先生は松茂町役場に奉職したことで、再び剣道と出会い、剣道教室の運営に協力し少年の指導にあたりました。

先生の熱心な指導により、剣道教室の生徒も各剣道大会に入賞するようになりました。なかでも第一回鳴門剣道大会では優勝、準優勝など各賞の大半を勝ち取り、松茂少年剣道教室の黄金時代を築きました。

現在は、三木只雄先生（範十七段）の指導を受け稽古に励む傍ら、松茂町体育協会剣道部の部長として少年剣道教室の指導をすると共に、板野東支部の発展のため活躍されております。

加 藤 圭 貴 (剣道二段 二十六歳)

板野東支部 米 田 利 彦

彼との出会いは松茂少年剣道教室で剣道の稽古を始めてからである。そこでの印象は自分の行動に自信が持てず、周りの子どもたちの動作を真似たり、掛かり稽古でも後ろへ後ろへと並び消極的であまり目立たない身体の小さな子どもであったように記憶している。

小学校を卒業すると共に剣道教室との縁も少なくなり、それ以来、彼のことを私は忘れていた。

彼は、中学、高校と剣道が続けたが高校時代の剣道大会では良い成績を残せず、昇段試験も受けていなかった。

高校を出てから四年間剣道から離れていたが、就職をしたことを機会に、私は剣道を再開しよう勧めた。彼もそのつもりだったのが積極的に一級、初段、二段と昇段審査に挑戦し合格することに、剣道に対する自信を持ち、彼が育った少年剣道教室で後輩の指導もするようになった。

実は、彼が私と同じ職場に就職するとわかった時、不安と期待が入り乱れ

た。幼いころのような消極的な人間だったら、仕事も剣道も期待できなかったが、剣道を学びそれで得た自信を社会で活用できる人間になってきた彼を見て、私の不安は無くなった。

これからは間近にせまっている二段の昇段審査に向けて稽古に励むと共により大きな人間となるよう修練し、指導者として活躍することをおおいに期待するところでありませう。

〈阿南支部〉

乾 みゆき

(昭和四十四年五月十五日生)

阿南支部 馬 原文彦



剣道との出会いは、阿南中学校一年春ださうです。

クラブ活動見学で最後に回って行った剣道部で先輩に囲まれ、半ば強引に入部届けを書かされたのがきっかけ。剣道の何たるかも知らず、ただひたすら発声練習、校舎の屋上で来る日も来る日も声をはり上げていたそうです。「先ず気合い！一中学二年間は喜多一郎先生に基本をみっちり指導して頂いた。

富岡東高等学校へ進んでからは、河田清実先生に出会い、入学時には「何も出来なかった腹筋も「腹筋が出来ないようでは子供もデキンゾー」とマンツーマンで教えて頂くなど、私が聞いても微笑ましくなるような恵まれた人間関係の中で剣道の奥の深さ、勝負の厳しさなどもご教授頂いたようです。

ようやく、子供の産めるような体力になったところで剣道二段の免状を頂いて卒業。当時、指導者が足りないで困っていた新野少年剣道教室の指導者になるべく、私の懇請を受けて、林美枝さん共々私どもの馬原医院(阿南市

新野町信里)に就職してくれました。

ところが、私の意に反して、少年剣道教室の子供達が彼女たちを指導者として受け入れてくれないのです。やはり若すぎたこと、指導力の問題などがあつたようで、病院からは剣道教室に送り出されるし、子供達は言うことをきかないし、体育館の前まで行くには行くが、外には出れず車の中で泣き明かすこともあつたようです。

教わる側から教える立場に変わってからはじめて、指導の難しさを身をもって知ると同時に、先生方に教えて頂いた言葉「一日の稽古を、一枚の紙としよう。一枚だただの薄い紙に過ぎないが、毎日の積み重ねによって大きな山となり自分の力になる。」の意味が理解できてきたと語っています。

平成元年、東京都で行われた全国青年大会剣道団体の部に出場。決勝の東京戦では先鋒の林が二本勝ち、乾が中堅で出場し、始まってすぐに「小手」が入り副審一人、主審の手も上がって「ヤッター」と応援団は大喜び。しかし、主審がコート主任に呼ばれてなにやら……。『取り消し』となり幻の優勝となりました。新野少年剣道教室指導者の忘年会では、今でもビデオを見ては「入った一の一惜しい」と議論をよんでいるところでもあります。しかし、全国大会で準優勝、立派な業績であり、その年の阿南市体育功労賞を受賞、その後の青年大会に出場する徳島代表の目標となっております。平成元年二段昇進。

平成二年頃からは、新野少年剣道教室も遠藤一美室長のもと、磯田尚文五段が監督に就任、金久博四段、馬見和秀四段と指導体制も整い、乾君もだんだんと指導者らしくなってきました。剣道連盟阿南支部の大会にも積極的に参加し、審判などのお手伝いも出来るようになりました。平成六年には四段に合格。

かわいだけの阿南支部の花から実力を備えた女流剣士へと成長を遂げてくれました。最近の剣道教室での練習風景は、乾先生の命令一下、規律正しく厳しい稽古が行われ、県下の剣道大会でもしばしば上位に顔を出すようになりました。

彼女も芳紀二十五歳、今年の春には「人生最高の時」を迎えようとしております。

彼女は「結婚・家庭・育児と多くのハンディがあることでしょうが、今日までの汗と努力の成果でもある剣道四段の重さを自覚し、益々精進をし、剣道を続けていきたい」と言っております。

手塚十三子先生が「徳島の剣道」第十号に書かれていたように剣道人口の減少、特に女子の剣道人口が減少している中で、社会人になってからも剣道

を続け、しかも四段それ以上をめざす。素晴らしいことだと思います。女性としてだけでなく、現代の若者に欠けている「礼節、秩序、持続性」などを兼ね備えた「乾みゆき」をぜひ剣道界の皆様で育てて頂きますようお願い申し上げます。

〈丹生谷支部〉

佐々木 武夫

(剣道四段 六十三歳)

丹生谷支部 松本 繁嗣

前木頭村教育長佐々木武夫氏を紹介させて頂きます。

氏は昭和三十九年役場に奉職、同四十八年社会教育主事、同六十二年には教育長となられ、平成六年七月退職されました。この間、阿土少年剣道大会等、村の少年剣道育成の為、力を注がれて来ました。剣道を始めた動機として、氏は次の様に語っております。

長男の心身鍛練の為、何かスポーツをと勧めたが、何もやろうとはせず諦めていた時、ある日突然剣道をやると言い出した。小学校でクラブ活動として始まったが、保護者に誰も世話役がいない組織もなく、初代少年剣道クラブ父兄会会長におされ、立候補。少年剣道の世話役(故西岡信太氏)をめざした。翌年社会教育主事となってからは北川小学校にも働きかけ、北川小学校少年剣道クラブを結成した。長男は中学校を卒業するまで剣道を休んだ事がなく、試合にも全て付き合った。(長男インタハイ団体出場。長女高校より剣道インタハイ出場)。

こうした事から剣道の良さに魅せられたと語っております。

自身も昭和五十一年四十五歳より剣道を始められ忙しい職務の傍ら稽古に励みましたが、五十一年には初段、翌年には二段に昇段され、途中病気の為中断されましたが、五十八年より少年(四年生以下)剣道の指導に当たられ、五十九年には三段、平成六年には見事四段に合格されました。

これからは健康を維持しつつ、一生涯剣道を続けると言っております。今後の御活躍をお祈りして筆を擱きたいと思っております。

岩川 正毅

(四段 四十三歳)

丹生谷支部 野々宮 眞佐夫

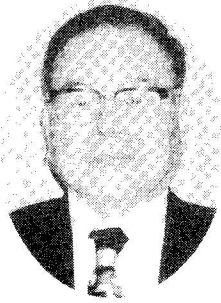
岩川正毅氏は、昭和二十六年那賀郡驚敷町阿井に生まれ、驚敷中学校入学と同時に剣道部に入り吉岡健吉先生から剣の手ほどきを受ける。この学年は西谷肇一氏(現在城ノ内高校教諭)を筆頭に兵揃いで三年生の四国総体団体戦で優勝を飾る程でした。阿南工業高校へ進学して、故清原栄範上に指導を受け、当時剣道では無名に近かった同校の基礎固めに努力されました。卒業後は驚敷町役場に勤務する傍ら町体協剣道部(振武館)の事務局としてなくてはならない存在となり、特に二十回を数える山家旗争奪県下剣道大会の開催には第一回から係わり、案内状・パンフレットの作成、記念品及び準備物の手配にと孤軍奮闘する岩川氏の姿には頭が下がる思いで一杯です。この間ほとんど裏方に徹しておりましたが、三年前から再び本格的に竹刀を握り、平成五年五月見事四段に昇段されました。強い手首を使って放つ小手技は豪快で、県下社会人大会、西日本勤労者大会等で活躍されています。

また岩川氏は剣道以外にも地元のア波踊り連で連長を務め、秋祭りでは山車を引く若連のリーダーとしてもがんばっております。また手先が大変器用でポトルシップの製作、ひょうたんの加工、イラストの作成等々多芸多才ぶりを発揮しております。

これからも健康に十分注意して剣道は勿論のこと、いろんな分野での活躍を期待いたしております。

〈海部支部〉

野田 豊 (剣道教士・居合道五段 七十四歳)



剣道連盟相談役 平岡 竹雄

君は、大正九年五月六日海部郡日和佐町赤松で殿父野田藤吉氏の長男に生まれる。野田家は赤松村で代々庄屋を務め苗字帯刀を許された岡本秀次の親族である。赤松小学校を卒業し、昭和九年徳島県立海部中学校に入學、浅井眞一先生に剣道を初めて学び二年間剣道開眼の喜びを知る。学校長を勤めた父の勧めで、教師への希望に燃えて徳島県師範学校第一部に合格する。ここで済寧館の天覧試合に全国優勝された藤川・太郎先生の愛弟子となる。基本稽古で竹刀の素振りをよくさせられるので、生徒は先生に「素振り」と仇名を献じて親炙していた。

偉丈夫の先生が豪快な面技を中心に鍛えられた。徳島師範は剣道の黄金期で、先輩に由岐出身の近藤信男、小松島の増田弘、同級の丸岡敏邦、下級生に早川一也等の錚々たる剣士の中で稽古の汗にまみれたという。師範最後の年に全国学生連盟剣道大会が東京で開催され彼は副将で出場、相手方の先鋒から副将まで連破して大将丸岡に引継ぐ勝運をつかんだと言う。昭和十六年三月師範の第一部卒業、同年四月一日赤河内村西河内国民学校校訓導となる。二十歳の春である。早速地域の剣友や生徒相手に剣道に熱中する。しかし太平洋戦争が始まり、昭和十七年二月西部三十三部隊に現役入隊、学校は休職となる。やがて選抜され久留米予備士官学校を卒業、原隊復帰して見習士官として中支各地に転戦、昭和十九年三月陸軍小尉に任官、その後軍部隊に転属、米陽派遣隊長を経て北支に転進し錦州に駐留する。戦局が苛烈の中、二十年八月一日、陸軍中尉に昇任された。しかし、同月十五日終戦の玉音放送を現地でも聴く。帰国への道を奉天方面に移動中、ソ連軍の捕虜となり、武装

解除されてソ連に抑留となる。以後二年間、炭鉱の採掘など重労働で数多くの戦友を失い、昭和二十二年十一月一日、ナホトカから舞鶴へ帰還した。

同年十一月三十日旧任の西河内小学校に復職出来た。青春の六年間国の護りに生命を捧げた貴重な体験であった。待望の教職復帰で熱中主義の君は教育活動に専念し、専門の音楽主任として、よく徹夜してピアノを弾いたという。更に、進駐軍に禁止された剣道への郷愁やみがたく、夜間同志の剣友を集めて教室で剣道の稽古を始めた。その頃県の中央でも尾形郷一先生の提唱する体育剣道クラブが生まれ、海部郡でも能田忠雄先生がこのクラブへの参加をすすめ同好の町村を中心に支部を結成した。時は昭和二十四年で、翌二十五年三月徳島県剣道連盟と改称された。野田君の剣道の会には海部中学で浅井先生に学んだ牧本陽二郎、浜西武雄、張西五六、永本正儀、山本止之、張野久晴、張西政晴、平岡等が竹刀の音を響かせた。昭和二十五年四月川東村の青空道場で第一回海部郡剣道大会が開催され野田が中堅で赤河内村が優勝した。昭和二十七年四月徳島市の親道館で剣道昇段審査会があり、野田、浜西、永本、平岡等が徳島県剣道連盟会長尾形郷一より剣道五段を允許された。昭和二十九年四月故郷の赤松小学校に帰任し、翌年四月月学校勤務奉教八年で教頭に昇格される。県教育界に例少ないき処遇であった。

赤松の土地柄は尚武の伝統がある。既に先輩の青木政市会長が剣道クラブを結成し、元警察官の楠木重住が海部郡の剣道支部長に選任され、その上に野田君の卓越した剣技と現場指導で剣道文化の開花期を迎えた。昭和二十九年第六回全国教職員剣道大会が京都市で開催され、本県から小学校教員代表に野田豊、中学校 中川虎雄、高・大学 伊原秀文、団体選手は 鈴木、細川、下村、柴田、松本、監督 滝下勝の布陣で活躍した。

都市対抗教職員剣道大会が四十三年より毎年実施され、二回海部郡の優勝があるが、野田君が中堅として頑張った栄冠である。その外、県下大会、南北大会等多彩な大会に労を惜しまず参加している。勤務校は日和佐町と牟岐町で、課外に少年剣道を基本から仕込み、その教え子が中学に高校にと進学し、おのおの県下を制し全国大会出場が度々であった。つねに教学一始の姿で青少年と稽古の汗を楽しんでいた。教士は昭和四十二年五月十七日に授与され、居合道五段は全日本居合道連盟より昭和五十五年九月二十一日に授与

された。教職在任は三十八年間、最終は日和佐小学校副校長で昭和五十四年四月一日退職する。

君は誠に多趣味である。退職後の悠々自適ぶりを拝聴しよう。専門の音楽を生かし赤松歌謡クラブを育てている。毎日曜日は日和佐洋画会員となり油絵の醍醐味を味わう。「並波水華流」剣舞師範上原一義から多年剣舞を学び、平成六年秋県大会で優勝し四国大会の選手となる。しかし猿稽古で足の肉ばなれで欠場した。更に毎月定例日、徳島保健センターで社交ダンスに老存を樂しむ等、事に臨んで勉勵する老壯の君の自愛を祈りたい。

|| 剣道随想 ||

〈小松島支部〉

義経上陸八百十年記念

剣道小松島士会に憶おもう

大会長 田村直一

平成六年十二月十八日は、かねて計画し、予定していた大会の日である。天気は朗々たる好天であった。よかった。小松島支部をあげて取り組んできた大会の日であるからである。小・中・高と三種別の選抜少年大会で、県下各地から集まり午前八時には、さしもの広い駐車場は一ぱいになった。ご迷惑をかけたが……、時間的に大会行事を配慮してみると、開会式の次第まで縮小せざるを得なくなり、割愛した式典行事もあった。このことについて御忠告をも承ったが、どうしようとも仕方なかった。結果は、皆様のご協力と審判員の先生方の心遣いもあって、適切な運営ができ、遅くならないうちに閉会式を執り行うことができ、帰途につかれる剣士の途中の無事を祈りつつお見送りのできたので一応ホッとされたわけである。会場の後始末にまでご協力を頂いた中学生の皆様、諸先生方有りがとうございました。会場の跡はゴミや芥も少なくて、ご協力のあったことが嬉しく支部員と共に感謝したのである。

「寂然不動」の剣による哲学の心は、こんなことにまでゆきわたると誰かがいわれました。まさにそれは、剣道が石丸末蔵先生（小松島市の剣道範上の大先輩であられる）のいわれる「常在剣道」に通じるものであろうかとおもったりした。

小松島市立武道館での第一回県下剣道大会は小松島市教育委員会の井上教育長の御高配も得て、執行した。名譽大会長の西川市長の挨拶に感銘された朋友西山勝喜先生からもメッセージがあった。多くの方々に郷土の歴史物語をも理解して頂き、ふるさとの歴史伝承を生かすつつ生活史のなかまで共に、おもしろい、語り、そして伝えて、その土地その土地を愛好し、その心を育て、後継者に文と武を身につけた「教養を」と希うものである。ありがとうございます。

(平成七年一月二十日)



義経上陸の地——小松島

〈板野西支部〉

変わり者

板野西支部 理事 加 集 美由岐

先生方は、五〇〇g程度の重さで四尺に満たない四ツ割の竹刀で剣道と言う「道」を歩いている。みんなが集まって、道場で汗を流している。こんなに打ち込んでいるなど普通では考えられない。これは変わり者である。剣道の魅力に取り憑かれた人達の集団である。この変わり者集団に魅せられて私もはや三年が過ぎました。十年、ひと区切り。息を詰めてやると誓ったのだから。後七年です。七年後には何かが残っていると思います。

私の剣道との出会いは、子供が主人に勧められて中学校の剣道部に入り、そして金西先生（板野西支部長）と出会い、金西先生から、「藍住で社会人が、盛んに稽古をしている。本格的に剣道をするのであれば、中途半端な事はやめて、剣道が面白くなるまで、剣道と言う「道」の入口に立つまで」と勧められ、現在は「知友会」で稽古をしています。

高田豊先生（県剣道連盟副会長）、高田亮先生に入門を許された時、一子供だけを道場に置いて帰ってはいけませんよ。」と、言うことが思い出され、それが私が剣道を始めるきっかけになったかも知れません。子供を送り迎えをしているうちに竹刀を握らされ、いつの間にか素振りをしている。そして、気が付いた時には面を付けて、先生方に必死に掛かっていく自分の姿がありました。「知友会」に入って初めての祝賀会の時、驚いたことは、お酒は強いし、歌もうまい。そして、もっと驚いたことは、延々と六時間も続く「剣道の話」でした。ここで、また、現代の宮本武蔵変わり者集団を見たのでした。

「知友会」では、切り返して始まり、切り返して終わる稽古をしています。「竹刀の操法」、「体の運用」の基本は切り返しだと思います。立ち合ひがなく、稽古である限り切り返しは大切だと思います。今日も、また、子供が

若さでもって、高段者の先生方に打ち掛かっているが、三分ともたない。大きなクジラにミジンコが掛かっている。なんとも言えない光景です。

私には先生と思っている人がもう一人います。現在、高知県で坂本土佐海範十を師とし、無外流、隈坂道場主門協将元教士先生です。〃人は、環境を作り、環境は、人を育てる〃。「芸に生きる」をモットーに日々をおくっています。・昨年の夏、阿波踊りを見に来た折、先生から「言葉の稽古」をしていただきました。日本には色々な流派があるが「つるし柿流」と言う流派がある。少し段位が上がったり、腕に自信が出来てくると、下座で稽古することに抵抗を感じたりする。これも成長の時期に必ず起こってくるのですが、何時までも脱し切れずそのまま年を取ってしまうと、「つるし柿流」になってしまいます。「へたなりに固まる」と言うことだそうです。私も、初心、向上心を忘れず、何事も謙虚な気持ちで、前向きな姿勢で稽古に励みたいと思うこの頃です。

最後に、私には夢があります。主人と一緒に、係を連れて、少年剣道に通うことです。変わり者の一員になった息子、娘と共に家族全員、みんなで剣道をするのが〃夢〃です。

〈麻植支部〉

私と剣道

山川スポーツ少年団修練館 矢 田 真奈美

私は二年生くらいの時から剣道をはじめました。きっかけは、姉が剣道をしていたので、私もやってみたいと思いはじめました。最初は何も分からなく、ただ姉について武道館に通いました。夏のうだるような暑さの中も、冬の厳しい冷たさの中も、周りの人達にはげまされながら続けてきました。

最初のころは、先生に注意されたことは、頭の中では分かっていたけれども、いざ試合になるとつばぜりあいばかりして、思うように試合ができず、負けばかりでした。もうやめたいなあ、と思うことも何回もありました。

でもある時、こんな私でも優勝することができました。まわりの人達がおめでどうと言葉をかけてくれるのですが、実感がわからない状態でした。何時間かたって、我にかえった時、剣道を続けて良かった、いい経験をさせてもらったと思いました。そして剣道が好きになりました。

検定の時、みんなではげましあったりして、がんばりました。きんちょうして足がふるえました。先生に言われたことを思い出して、一生けん命やりました。そしてあとで注意してもらった時、剣先が上がらず、声を大きくして、など注意されました。これからはおしていこうと思えました。発表の時、見に行くと、私の番号がありました。うれしかったです。そして注意されたこともなおしていこう、と思えました。

今、思い返せばつらいこともたくさんあったけれども、それ以上に四年間続けたという、じゅう実感で、胸がいっぱいです。これから、いろいろなことがあると思いますが、きつとのりこえていけそうな気がします。

それから、剣道を通してたくさんの方達もできてよかったです。今まで教えてくださった先生方には、一言で言いあらわせないほど感謝しています。

〈勝浦支部〉

私と剣道

勝浦剣道教室 六年 岡本陽子

私は三年生の終わり頃から剣道を始めました。

初めは、簡単な練習ばかりで、早く面をつけたくてあまりませんでした。面をつけ練習を始めてから何日か過ぎ、練習が厳しくなってくると、「もう、やめたいな」「剣道にむいてないんだ」と思ったりした時もあったけど、毎週先生も一生懸命教えてくれているのに、自分も一生懸命にしなくてはいいなと思います、それからがんばってしました。

そして、初めての試合に出る事になった時、すごく不安でした。試合が始まって私はすぐに負けてしまいました。それから何回か試合に出場しました。経験しているうちに慣れてきました。

今は、負けても練習通り力一杯できるようになりました。

剣道を始めてから、もう約三年が過ぎようとしています。私が剣道をやり始めて思う事は、剣道だけが善くなっただけではなく、歌やあいさつ、礼儀、自分に対する責任感や精神力、集中力も十分ではないが、身につけてきたと思います。まだまだ不十分な所が私にはあるので先生の話や素直に聞いて早く先輩のように、それ以上にがんばりたいです。

小学生での練習はあと少しですが、中学生になっても何事にもまげず「ファイト」でがんばりたいと思います。

〈阿南支部〉

三年間の剣道の思い出

大野小学校剣道部 大西雅照

僕は三年生から剣道を始めました。入部した時は礼のしかたや足おくり、竹刀のにぎり方とだんだんと練習もむずかしくなってきました。そして面を着けるようになると、初めはひもがむすべなく、保護者の方にむすんでいただいたこともありました。それから、きびしい練習が続き、夏には朝早く早朝練習をし、冬には、とても寒く剣道着を着るのもいやになり、休みたくなることもありましたが、でも、両親にむりやりつれていかれた事もあったように思います。そして、四年生になり、新野大会団体戦に出場し、優勝しました。金メダルを初めて手ににぎることができ、その時は、取れると思わなかった分、とてもうれしかったです。でも、なにより喜んでくれたのは、家族だと思っています。

五年生になると、多くの大会に参加しました。その中でも思い出となった大会が、小中剣道強化錬成大会です。この大会は、決勝までいくと四国放送で放映されます。そして、僕は決勝戦までいき優勝できました。この時もとてもうれしかったです。

六年生になり、夏には防犯の市の予選があります。その大会で、優勝することができました。そして、次は県の団体予選で優勝できれば全国大会へ行けるという大会です。この大会で優勝する事ができ、僕は、全国大会の事で頭がいっぱいになりました。全国大会では、阿南警察署チームで出場し、予選リーグ、決勝リーグに進み、全国でベスト16の成績を残してきました。そして十二月、スポーツ少年団の大会で優勝し、もう一度全国大会へ出場できることになりました。今まで一番うれしかったことです。

一月、また小中剣道強化錬成大会に出場し、その時僕は、去年優勝したチームの代表者として、選手宣誓をしました。そして、二年連続で優勝することができました。

剣道には勝負があります。勝負は自分が成長した所を見つけるものだ、と教えていただきました。多くの練習の中でいろいろなことを学んだように思います。

ここまでご指導してくださった西岡侃、直彦先生、池田洋一先生、その他たくさんの方、僕を支えてくれたお父さん、お母さん本当にありがとうございます。そして、中学生になっても剣道は続けて行きます。

僕と剣道

大野小学校剣道部六年 一級 仁 木 進 介

僕が剣道を始めたのは小学校一年生の時です。

二人の兄が剣道をしていて、親につれられてよく道場へむかえに行っていたからです。

兄たちは道場だけでなく家でも毎日練習していました。僕は幼稚園の時からその横で竹刀を振っていました。入部した時はだいたいこの事はできたように思います。

しかし、試合となると多くのライバルがいて思うように勝てない事もあり難しいのだと初めて思いました。特に高学年になると皆強くなって大事な試合で負けてしまったり、やしい思いをしたこともありました。僕は、大野小学校剣道部に入部できて大変良かったと思います。

西岡侃先生、池田洋一先生、西岡直彦先生に教えてもらって、何回か優勝することもでき、また友達も沢山で剣道をして良かったと思います。

また、延野剣道教室の橋本先生には全国スポーツ少年交流大会（山梨県）出場の際は監督として、今までとは違った剣道も教えてもらい思い出のころ先生です。

小学生としての剣道もあと少しです。僕は中学校に行っても剣道を続けたいと思います。

大野小学校剣道部でご指導いただいた先生方がどうございました。教えられた剣道精神をよく守り、みんなとなかよく、生けん命がんばります。これからもよろしくお願いします。

剣道と六年間の思い出

大野小学校剣道部 谷 口 文 崇

ぼくが剣道を始めたのは一年生の時でした。兄が剣道をしていたので幼稚園の時から練習を見たり、試合を見に行ったりしていたので、ぼくも自然に剣道を始めようになりました。

初めのころは早く面をつけて練習がしたいと思いました。面をつけて練習ができるようになると、剣道がおもしろくて一生けん命練習しました。

新野大会で初めての試合に出ることができ、ぼくは準優勝をしました。その時はとてもうれしかったです。

ところが、そのうちすきなテレビを見たり、友達とゆっくり遊んだりできないので練習に行くのがだんだんいやになってきました。「休む」と言うのにむりやり練習につれていかれました。いつも、「やめる、やめる」と言っていた二年間でした。

そんなぼくが自分から練習に行くようになったのは、四年生の三学期からです。それは、全国スポーツ少年団剣道交流大会県予選で優勝してからです。大会前の各道場へ行っての合同練習はきびしかったけど、みんなとても親切にしてくれました。

春、富山県総合体育センターで行われた全国大会に、ぼくは先ほうで参加して団体戦で三位になりました。

五年生になったぼくは、大野小学校剣道部の先ほうだったので、チームにめいわくをかけないようにするためにさらに練習も試合もがんばりだしました。

六年生の夏、防犯剣道大会阿南予選にぼくたち大野小学校剣道部の三人が勝ち阿南署チームの一員となって県大会に出場しました。そこでぼくたちは優勝したので全国大会に行くことができました。

全国大会は東京警視庁武道館でありました。この時、池田先生がちゃんとでいっしょにいてくださいました。結果は、予選リーグは勝ったものの決勝トーナメントの第一回戦で負けました。負けたとはいえ全国大会に参加で

きたことはよくにとつてはいい勉強になったと思います。

試合が終わってみんなで行ったディズニールランドの夜のパレードはとてもきれいで、今も心に残っています。

厳しく基本を教えてくれた西岡先生と池田先生、剣道のおもしろさを教えてくれた西岡コーチ、いつもはげまし応援してくれた大野小学校の先生や家族いっしょにがんばったチームの仲間たち、みんながいたからぼくたちは強くなりたくさんのメダルがとれたのだと感謝しています。みなさんありがとうございました。

〈海部支部〉

海部支部 三段 和田 拓 男

二十数年ぶりに竹刀をにぎりました。高校時代の三年間、今は故人となられた伊原秀文先生の御指導を受けましたが、卒業後は稽古をする機会もなく、ほとんど忘れてしまっていました。

ところが、九年程前になるでしょうか、由岐町にも少年剣道教室が開設される事になり、私の娘二人も参加させてもらう事になりました。しばらくこの二人を送り迎えているうちに、一つ自分ももう一度頑張ってみようかという気持ちになり、子供達と一緒に竹刀を交えながら、海部支部一般の合同稽古にも出させてもらうようになった次第であります。

あれから八年、まだまだ満足な稽古はできておりませんが、途中で挫折することなく、よく続けてこられたと思っております。とは申しましたが、今はまだ剣の道に初めの一步を踏み出したにすぎないのではないのでしょうか。この先の長い長い坂道を急がず、あせらず一步、歩のぼって行こうと思いません。そしてそれがほんの少しでも青少年の健全育成に役に立つのであればこれ以上の喜びはありません。

海部支部 五段 近 藤 浩 文 (三十四歳)

私と剣道の出合いは中学校入学と同時に、剣道部の顧問は中山啓男先生(教士七段、現至誠館道場館長)でした。

高校では、西谷肇一先生(教士七段)に剣道の理念、術技をご指導していただくことが出来ました。この前後六年間で生涯剣道の基礎が出来上がったと思います。

学生時代の六年間の成績はあまりいい方ではなかったですが、剣道をやめようとは思いませんでした。

剣道の持つ不思議な魅力にわからないながらもひかれていたのだと思います。

試合で勝てなかったことが自分の今の求め続ける力になっていると思いません。

卒業して五、六年は仕事の関係で剣道から遠ざかった。その間、張野久晴先生より居合を指導していただくことが出来ました。

また、剣道と再会出来る時期を、今か今かと待ちわびていました。
仕事に余裕が出来たので、日和佐剣道教室(日和佐剣道スポーツ少年団)

で、剣道と再会する機会に恵まれました。

子供と一緒に剣道を始めて指導する難しさ、また楽しさを味わえるようになったと思います。

勝敗にこだわらず伸び伸びと先の業を心掛けていますがなかなか思うように出ません。先輩の剣士に学び、また青少年を相手にさわやかな稽古の汗を流しております。

今後とも努力精進して行きたいと思えます。

徳島の剣道

——各パートからの報告——

中学校の部

阿南第一中学校教諭 立川 信彦

本年度を振り返ってみると、各校とも実力が接近し、大会ごとに優勝校が変わるといふ年であった。

さて、六月の県中剣道選手権大会では男子五十六校、女子四十一校の参加があり、男子では市場中と阿南中の決勝戦となり、勝負は代表決定戦、市場中に軍配が上がった。女子においても市場中対阿南中の決勝戦となり1対0で市場中が勝ちアベック優勝をした。

次に七月の県中総体では、予想どおりに市場中、阿南中が順調に駒を進めたが、男子、女子ともに決勝戦は阿南中、阿南一中という阿南勢同士の対戦となった、男子は阿南中が3対1で阿南一中を下し優勝した。女子においても同じ対戦となったが、ここでは阿南一中が2対1で優勝し全国大会出場への切符を手に入れた。男子個人戦においても団体優勝の勢いで門田（阿南中）が岩朝（鳴門一中）を下し、女子では、畑山（市場中）が榎本（相生中）を下し優勝した。個人戦では男女ともにベスト4に二年生（長谷川（小松島中）、榎本（相生中））が入ったことは注目すべきではないか。

次に四国中学校総体では、近年本県チームはよく活躍し、今年も期待がもたれた。まず男子団体戦では阿南中が、予選リーグから順調に勝ち進み、みごと優勝した。女子団体戦は決勝トーナメントに進むことはできなかったものの、個人戦において榎本（相生中）が決勝戦まで進み、惜しくも敗れはしたが、みごと準優勝に輝いた。

八月に北海道で開催された全国中学校選抜剣道大会では、男子団体の阿南中は予選リーグで惜しくも敗れたが、女子団体戦で阿南一中がベスト8に進出し、京稜中（熊本県）に代表戦で敗れたが、敢闘賞を受賞した。

十二月に行われた県中剣道新人大会では、男子決勝は小松島中と相生中との対戦となり小松島中が5対0と圧勝し、女子では阿南中と那賀川中の対戦となり1対1で本数の差で那賀川中が接戦を制した。

新チームにおいても突出したチームが少なく、実力伯仲しており今後の精進しだいではどの学校が上位に進んでも不思議はないと思われる。

高校の部

城南高校教諭 大石 正志

平成六年度の高校剣道を振り返ると、三月末に愛知県で行われた全国高等学校選抜剣道大会に男子富岡西、女子富岡東が出場し、富岡西は予選リーグで惜しくも敗退した。女子富岡東は三年連続三位に入賞を果たした。

四月には会長杯争奪剣道大会が行われ女子ベスト4には富岡東、城ノ内、小松島、富岡西が勝ち上がり、決勝戦では富岡東が富岡西に圧勝し優勝した。男子は城ノ内、徳島東工業、阿南工業、富岡西がベスト4に進み、城ノ内が選拔予選覇者の富岡西を下し三回目の優勝を飾った。

六月の高校総合体育大会にはインターハイをめざし男子三十校、女子十四校が出場し三日間の熱戦が繰り広げられた。女子は決勝リーグで他を寄せ付けず富岡東が優勝した。男子は城ノ内と富岡西が接戦の末2対1で城ノ内が勝利を収め決勝リーグを制した。個人戦女子は猪尾、敷田、陶木（富岡東）、大坂（富岡西）。男子は島本（小松島）近藤、弘田（城ノ内）、高濱（川島）がそれぞれ決勝リーグを戦い、女子は猪尾満紀、男子は高濱慎也が優勝し最優秀選手を獲得した。

四国選手権大会は香川県丸亀市で開催され、男子団体は城ノ内が第三位、女子団体富岡東が六回目の優勝を飾った。男子個人は近藤（城ノ内）が準優

勝、女子は徳島県高校総体と同じメンバーがベスト4に勝ち上がり猪尾（富岡東）が見事に優勝を果たした。

八月のインターハイは富山県で開催され、男子城ノ内は予選リーグ敗退、女子富岡東はベスト8入賞し優秀選手に坪井が選ばれた。個人戦は男女とも上位進出はならなかった。

国民体育大会では昨年の雪辱を晴らし、少年女子が九州勢を抑え見事に三位入賞を果たすことができた。

十一月には新チームで初めての大会である高校新人大会が開催され男子富岡西、女子富岡東がそれぞれ優勝を飾った。一月には全国選抜県予選が行われ男子城ノ内、女子富岡東が出場権を獲得し、上位進出をめざし日々稽古に打ち込んでいる。

本年度は全国選抜大会、四国大会、インターハイでそれぞれ成果を残すことができたと思いますが、この成果も剣連稽古会毎週（水）（土）で指導していただいたり、審判の労をとっていただいた先生方さらには熱心な保護者の方々の力だと感謝しております。

高校の剣道は中学から優秀な生徒が入学し、高校に情熱ある指導技術の高い指導者がいて初めて全国に通用するチームができると思いますが、一方で高体連は剣道人口の減少という大きな問題を抱えています。本来の剣道の目的を忘れる事なく、何が足りないのか、なにが大切かを考え、様々な問題解決のための研究に高体連一丸となって取り組んでいきたいと考えています。今後ともご指導いただけますようお願いいたします。高校の部の報告と致します。

女子部

徳島市立高等学校教諭 手塚 十三子

「表彰台のある一番高い所は後輩達のために」という熱いメッセージを贈り、昨年の国体のハワードで今年度も見事に三位入賞という好成績を飾ってくれたのは富岡東高校です。

汗をかくのが面倒だ、クラブ活動をしていては受験に差し支えるなどの理由で中学から高校へ、さらには上級へ進学するにつれ剣道愛好者は反比例して減少傾向をたどっているのが実状です。

このように厳しい環境の中、県下の中学の情勢を眺めてみますと、阿波、市場、阿南、阿南一、那賀川、相生中学を中心として県下の各種大会はもちろんのこと、全国大会においてもその健闘ぶりがよくうかがえます。

また社会人の部においては、年々全国の試合レベルがアップし、それに伴い平成九年度大阪国体から成年女子の部が新設されることになりました。平成八年国体リハーサル大会では本県は招待されることが既に決定しております。

県下の社会人における人口は相対的にみますと、まだまだ少ないと思われます。しかしながら剣道に寄せる熱い思いは格別のものがあると信じています。また、少年剣道の普及、発展にも私達が果たす役割には大きいものがあると期待されています。

次年度は講習会等も多く開催されます。女性剣士の皆さんの積極的なご参加を心よりお願い致します。

居合道部

高橋 憲 司

平成六年度の事業報告をさせて頂くに先立って、春季居合道講習会の講師としてお越し願っておりました澤田友信範士が、亡くなられました事をお知らせしなくてはなりません。

先生は、高知に在って、先師山本晴介先生より無双直伝英信流を継承され、その真髓を限りなく探究される一方全剣連の居合道委員として後進の指導育成に当たっておられ、当県においても昭和六十年より講師の労をお執り頂いたのでありますが、一昨年夏頃より体調の不調を訴えられるようになり、その後治療に専念されておられ快気されるものと心待ちに致していたのですが、病膏肓に入ってその回復が見られないまま去る平成六年十一月十三日、享年七十二歳をもって逝去されたものです。生前当居合道部に寄せられた先生の心温かい御指導に対し、会員一同感謝と追悼の念を深く致しますと共に、心より御冥福をお祈り申し上げる次第です。

平成六年度の県剣連主催の行事について、春季講習会は講師の澤田範士が健康面の事情で見えられず、県内講師（平尾勝美先生）によって四月三日県立中央武道館において実施し、その中で新たに剣道形を講習課題に取り入れ、三十名の受講者が熱心に受講をしました。秋季講習会は例年通り講師に大阪の福田範士をお迎えして実施し、少年剣士二十名の参加もあり六十五名が受講しました。全剣連主催の居合道中央講習会が今年度より東西に分れて実施される事になり、九月十七日・十八日の両日大阪において開催された西日本中央講習会には平尾・高橋の両受講生が派遣せられ、それを受けて十月十五日徳島市農村環境改善センターにおいて伝達講習会を実施し、三十名の参加がありました。十月三十日秩父市において開催された第二十九回全日本居合道大会には、監督に平尾先生以下七段に前田、六段に岸田、五段に福井の各選手が本県の代表選手として参加をしました。審査会は五月二十九日、九月二十五日、十一月六日に級、段位及び称号の審査を実施し、級に三十二名、

段に十二名と錬士に一名が合格しています。

中央審査会においては、七月十七日熊本において坂本憲一氏が、十一月十九日東京において岡田育幸氏が六段に合格されています。

部の行事として、四月二十四日県下居合道大会を徳島市農村環境改善センターにおいて開催し、五十名の参加があり全日本大会及び香川大会への選手選考を行うと共に、少年剣士諸君に優秀、敢闘、努力の各賞を出して一層の励みとしました。

今年度も各先生方の御尽力によって一般並びに少年の新規加入があり、また一般会員にあっては級保有の方にも会員となって頂いており、次年度は講習会、練習会を充実してさらに発展を目指したいと考えています。

東京大会に行つて

鴨島少年剣道教室 乾 貴洋

平成六年七月三十日、「全日本少年武道錬成大会」に、鴨島少年剣道教室の代表で参加してきました。全国から千五百二十チームが出て二日間行われました。

前日から東京へ行って、三十日朝早く日本武道館に着くともういっぱいの人々が広い大きな会場にきていてびっくりしました。

入場行進だけでも時間がかかりました。鴨島は十コート（全部で十六コート）の一番目に試合がありました。相手は茨城県の猿島、心会です。ぼくは先鋒なので、一番です。ドキドキしながら笛が鳴るのを待ちました。「ピー」ぼくは思いっきり大きな声で基本判定をしました。赤が二本とも上がりました。「やったあ」とてもうれしかったです。四人もがんばって、基本も一本勝負も、大差で勝ちました。次は東京の滝野川小学校剣友会です。今度も思いっきり大きな声でやりました。

みんなもよくがんばったけど、同数で本数負けしてしまいました。がんばったのに負けたので、くやしかったです。

夕方から東京ドームで、都市対抗野球を見物しました。テレビとちがって広くてきれいでした。応援したN.T.Tは負けてしまい残念でした。

六年間、剣道をしてきて、東京へ行ったこと、メダルをもらったことが一番うれしいです。それと大きな声と姿勢がよくなったことです。

中学生になっても続けようと思っています。

夢がかなって全国大会へ

鴨門市第一中学校 岩 朝洋 平

小さい頃から、将来の夢は「全国大会に出場すること」であった。小学校時代、鴨門運動公園少年剣道教室に通い、なにげなく稽古をしてきたが、まさか本当に全国大会に出場できるとは思っていなかった。中学に入学後は、ただ一強になりたい！という一心で稽古に励み中学生生活最後の夏、夢がかなって念願の全国大会出場権を手にした。

「第二十四回全国中学校選抜剣道大会」に出場される選手の皆さん、ようこそ千歳へおいで下さいました。平成六年八月二十日、千歳市中学代表者の歓迎の言葉で全国大会は幕を開けた。一回戦、生まれて初めてこんな大舞台で試合しているかと思うと、緊張しないはずがなかった。しかし、今まで一生懸命稽古してきたという自信が緊張感をふっとばしてくれた。心・技・体が、つになり自分の精一杯の力を出しきることができた。「コテ」「メン」とスムーズに決まりまず念願の一勝！興奮して頭の中が真っ白になっていた。二回戦、気持ちをひきしめて挑んだ。しかし、「勝負をはやく決めたい」という思いが強すぎたためか一つの技にこだわりすぎ、逆に剣先が上がって面をねらいに入ると「ドウ」を抜かれてしまった。ベスト8に入りたいという自分の目標は達成できなかったけど自分の力はすべて出さなかった。

人間、一番苦しい時に頑張った者が勝つ。しかし、所詮自分のためだけにがんばる者は弱い。本当の情熱は、愛と感謝の気持ちで支えられなくてはならない。という中村清の言葉をしみじみとかみしめた。

今、しみじみとこれまでのことをふりかえってみると、たくさんの方、先生方にお世話になり、そのおかげで今までがんばってこれたことに感謝しなければならぬと強く思う。中三の夏、全国大会に出場できたこと、そしてそのことを祝ってくれたたくさんの方々の励ましを忘れることなく剣道に精進したい。鴨門市第一中学校の剣道部の顧問の竹内先生が子供が生まれる直前まで指導してくださり、応援してくれたことも一生覚えていたい。

中三の夏のこの貴重な体験を生かし、長い人生を頑張り続けたいと思う。

四国高校剣道大会に優勝して

徳島県立富岡東高等学校 三年 妹 尾 かずみ



平成六年六月十八日と十九日の二日間、香川県立丸亀武道館において第二十八回四国高校剣道大会が開催されました。昨年は決勝で惜しくも涙をのみましたが、それをバネにし、四国制覇という目標を持ってこの大会に臨みました。

試合は四校一組の予選リーグがあり、それからトーナメントという試合形式でした。予選リーグ一試合目は八幡浜高校と対戦しました。初戦ということもあり、みんな緊張して自分の剣道ができていないように思いましたが、結果は3対1で勝つことができました。次からの試合は一試合目より二試合目、二試合目より三試合目というように、自分達の剣道ができるようになり、気が付いてみると、私は三戦全勝で決勝トーナメントに駒を進めていました。

決勝トーナメント一回戦では、波に乗っている私達が、坂出商業高校を圧勝し、決勝を迎えました。対戦相手は、予想していた通り、春の全国選抜大会で三位入賞の高松南高校でした。決勝となると、動揺が隠せずオドオドしている時に、先生が「挑戦者になって掛かれ！」と声をかけて下さり、その瞬間、みんなの緊張が消え、無心で戦うことができました。結果は優勝。

振り返ってみると、先生のあの一言が、優勝へと導いてくれたのだと感謝しています。

今まで私達を支えて下さった先生、父兄、先輩本当に有難うございました。

富山インターハイベスト8に進出して

富岡東高等学校 三年 猪 尾 満 紀



平成六年八月一日、いよいよ私達三年生にとって最後の大会となるインターハイが富山県庄川町で開催されました。この日のために部員一同、一丸となって苦しい練習にも耐え、日々努力してきました。『ここまで来たんだから迷うことはない。自分の力を信じてやるしかないんだ』と、自分に言いかけ、そして

予選リーグは中村学園高と和歌山北高との対戦で、力はあまり変わらず、気迫の上回った者が勝利に結びつくと思いましたが、2戦とも少し緊張があったのかいつもの動きではありませんでした。決勝トーナメントに駒を進めることができました。これからは勝負。一回戦は鏡高との対戦で苦しい試合にはなりませんが、みんなですつなげて、チームワークで接戦をものにするこ

とができました。準々決勝の長崎西戦では自分の力が出しきれず、いや出させてもらえないまま終わってしまいました。何も考えることができません、ただぼー然としているだけでした。父兄の方や剣道仲間にも励ましの声をかけてもらった時、なぜか胸が熱くなりました。先生と仲間ですつなげて頑張り

てきたのと思うと、後から後から涙が出て来て止まりませんでした。しかし、このインターハイで勝負の厳しさ、精神力の強さ、チームワークの大切さなど改めて知ることができました。このことを忘れず富岡東で学んだことを生かして、これからも一歩一歩あゆんでいきたいと思えます。

私達のために毎日熱心には優しく、ときには厳しくご指導して下さいました。河田先生、いつも温かく応援し見守って下さった父兄の方々、共に汗を流し励ましてくれた仲間達に感謝しています。本当にありがとうございます。

第四十九回愛知わかしゃち国体に 三位入賞して

富岡西高校 三年 大坂 佳世



昨年の七月末に国体の四国予選が高知県でありました。私たちは三戦全勝し、国体への出場権を手に入れることができました。国体までの間、遠征、日々の練習を重ね、技術、体力、精神力を前よりもアップさせ、国体では今までにない最高の自分になれるよう努力してきました。

『いい汗キャッチ！ いきいき愛知』をスローガンとする国体秋季大会が愛知県で行われました。この日のためにやってきたことが無駄にならないようにと一戦一戦全力で戦い、第三位という立派な成績をおさめることができました。このように入賞できたのも熱心に御指導して下さいました諸先生方、ともに出場し頑張った仲間、周囲の人達の温かい応援、そして愛知でお世話になった方々のおかげです。本当にありがとうございます。

国体を通して多くの人と出会いました。そして努力すればそれだけの結果が得られるということ、誰にでも感謝できる素直な心、チームワークの大切さ、自分を信じるということなどを学ぶことができました。

この国体での貴重な体験は、私の一番の思い出となりました。国体で学んだことを生かして、何事もあきらめず挑戦し、出合いを大切にしてこれからの生活を送っていかうと思います。

全日本女子選手権に出場して

富岡東高校 一年 坪井 さくら



個人戦だけの全国大会は、この大会が初めてだった。とりあえず気楽にいかうと自分に言いかけ試合にのぞんだ。

四人一組のリーグ戦で試合が行われた。

第一試合目は警視庁の松浦選手とだった。何も分らない相手で自分のベストをつくそう」と思いながら試合を始めた。しかし、

立ち上がりから高校生にない力強さで攻めてこられ、たじたじだった。何を打っていても当たらない。頭の中は真っ白でいつのまにか延長戦をくり返していた。試合前は「勝っても負けても別にいいか」と考えていたが、なぜかそのときは意地でも負けたくなかった。しかし体力はすでに限界に等しく無我夢中で試合をしていた。一時はこの試合は勝負がつかないのではと心配しながらしていた。そんな中、無心のメンが決まった。

第二試合目は、同じ高校生の選手だった。前の試合の疲れと気のゆるみのせいか、先に引き胴をとられた。そして刻々と時間は過ぎていった。けど時間のことはあまり意識せず全力で向かっていった。そのうちどうにかメンを本取り返すことができた。残り数秒のことだった。そして延長一回で勝負はついた。

第三試合日は岩手の社会人の選手だった。ここまできたら絶対勝ちたいと強く思った。その気持ちの裏には応援してくださっていた先生方などの気持ちにこたえることもあったが、このような大きな大会でのチャンスはそう何度もないし、どうしても決勝トーナメントで試合がしたかった。こんなに勝つことを強く望んだのは初めてのことだった。そして希望はかなった。

決勝トーナメント一回戦、大阪府警の高田選手との対戦だった。勝ち負けよりもみんなが見ている中での試合なのではずかしくない試合を心がけた。松浦選手同様、力強い攻めでしかもスピードのあるメンがとんできた。そし

てそのメンが一本となり試合は終わった。

その後、決勝戦までずっと見た。思わず息をするのも忘れるくらいの試合ばかりだった。とくに二連覇を達成した石田選手など一流の選手には自分の剣道には足りないものを見せられた。それは体力や瞬発力や体格などではない、もっと重要なものだった。

この大会に出場して普段の練習や練習試合では経験できないことが経験できた。また内容の濃い立派な試合ばかりで大変勉強になった。

全国高校選抜剣道大会

二年連続三位入賞して

富岡東高校 前 浦 幸 代

予選リーグの組み合わせを見て、みんなの顔に緊張がはしった。それは優勝候補の熊本県阿蘇高校、上位をねらえる栃木県栃木南高校との対戦が決まっていたからだ。はっきり言って私達は、予選リーグ突破は難しいと思った。しかし、今までの苦しかった練習を思い出し、みんなで励まし合い本番に臨んだ。

初めて新チームになってからの全国大会、緊張しながらも自分達の力を信じて会場へと向かった。予選一回戦栃木南高校とである。ここで負けては意味がない。五人で励まし合いチーム全体を盛り上げた。先鋒戦から勢いづいたこの試合では自分達のペースをつかみ勝つ事が出来た。このまま二回戦阿蘇高校に臨めばいけそうな状態にありつつ、優勝候補であるという言葉がついに緊張を高めていた。トーナメントの初戦に臨むつもりで私達は阿蘇高校に挑んだ。先鋒が二本勝ちをおさめてくれ、次鋒から大将までが試合をつなぎ接戦の末、2対1の本数勝ちで阿蘇高校を破る事が出来た。私達は予選リーグを苦しみなながらも、勝て突破する事が出来た。この時は、何もかもが終わったというくらいに頭の中がカラッポだった。

次の日、

「これからが本番」

と言われた先生の言葉をかみしめながら決勝リーグへと臨んだ。相手は島根県代表の大社高校である。やはり、同じく予選リーグを勝ち抜いてきたチームであるから楽に試合に勝てたわけではないが、前日阿蘇高校を破った勢いと気持ちの高まりがあり勝つ事が出来た。準々決勝は埼玉県代表の埼玉栄高校である。先鋒が一本勝ちできてくれたにもかかわらず副将である私が二本負けてしまい大将には大変大きな負担をかけてしまった。しかし、大将戦では見事にメンを決めてくれ苦しくも2対1で勝つ事が出来た。この試合は、一本の大きさがよく分かったような気がした。苦しみなながらも、いよいよ準決勝までできていた。相手は長崎県代表の大村高校である。練習試合で何度か対戦した高校である。しかし、お互いに練習を積んできたので力は分らない。試合は相手のペースにのまれてしまったという感じだった。しかし、なぜか悔いはなかったように思われる。

私達は三位入賞を果たす事が出来た。今までの苦しかった練習がここで発揮されたのだ。私達はすがすがしい気持ちで会場を後にする事が出来た。私達をここまで導いて下さった河田先生、本当にありがとうございます。

第九回徳島県高齢者剣道交流大会

(徳高齡剣事務局)

平成六年四月十日(日)中央武道館において会員五十余名参加の上、第九回徳島県高齢者剣道交流大会が盛大に催された。本年からは他の種目とは別に開催し、シルバースポーツ・フェスティバルとは別に県高齡剣主催となる。東京都からは、松島副会長はじめ堀ノ内理事長、嶋、小田部、高崎の三先生、山口県から白川先生をお迎えした。高知県からは、依岡会長をはじめとする十名の先生方をお招きした。

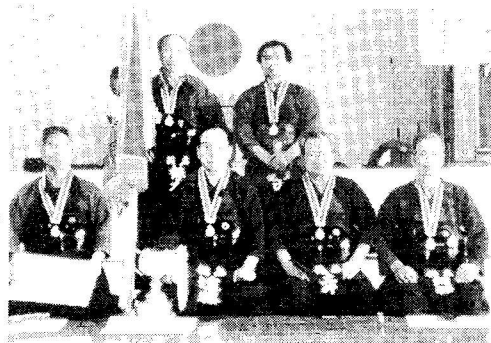
勝浦会長の挨拶につづき、松島新副会長、堀ノ内理事長からは挨拶、祝辞を頂き武道大会歌詞剣華を斉唱して演武となる。日本剣道形は、前年度優勝チーム阿南支部。打太刀中山啓男、仕太刀株木芳夫兩名の気の合った形。居合道英信流平尾勝美八段、野口直之七段の見応えのある太刀さばきが披露された。

試合は、午前中団体戦、午後個人戦と続き、熾烈な試合の連続であった。結果は次のとおり。

団体優勝阿南支部B(中山啓男・株木芳夫・遠藤一美)、準優勝阿南支部A、第三位徳島支部A、小松島支部。

個人戦A組優勝早川一也、準優勝西野四郎、第三位勝浦守、蝦名久作。B組優勝西山勝喜、準優勝松本英雄、第二位中西敏治、阿部三十三。C組優勝遠藤一美、準優勝馬場力、第三位福島栄治、近藤康次。

試合後、昼食、総会、交流試合(東京・高知・徳島)となる。首都東京の剣豪は強く、試合運び、間の取り方など立派な試合で学ぶべきところが多かった。交流試合の後合同練習で汗を流し、一日を終えた。



第9回徳島県高齢者剣道大会
優勝 阿南支部B 準優勝 阿南支部A

第一回徳島県健康福祉祭を終えて

(徳高齡剣事務局)

各種目毎に行われていた大会が、県あいらんど推進協のお世話により次第に組織され、ねんりんピックとなり、健康福祉祭と総合されていく姿がよくうかがえます。

平成六年十月一日(土)九時二十分より全種目の競技は吉野川河川敷の運動公園にて、健康福祉祭開会式が開かれた。剣道からは会場が遠い関係で役員だけ、五名参加。中央武道館では剣道競技の開始式を催した。物故者のご冥福をお祈りして先ず黙禱を捧げ、選手宣誓は中山啓男先生にお願いし、日本剣道形は前年度優勝の阿南支部から、打太刀の株木芳夫、仕太刀中西敏治両六段の意気の合った素晴らしい形。試合は午前中団体試合、昼食後、個人試合に移る。組み合わせは、すべて抽選で決めることにした。

試合の結果は、次のとおり。

団体優勝小松島支部(早川一也、田村直一、蝦名久作)、準優勝徳島支部B、第三位丹生谷支部、阿南支部A。

個人A組優勝松本英雄、準優勝西野四郎、第三位西山勝喜、糸谷文雄。B組優勝遠藤一美、準優勝中山啓男、第三位南充美、株木芳夫。

午後三時三十分、閉会式。全員で後始末をして終わる。



第1回徳島県健康福祉祭剣道大会
優勝 小松島支部

第七回全国健康福祉祭かがわ大会

剣道大会に参加して

平岡竹雄

「健康発、長寿行、オリブ色の風に乗り」をテーマに高齢者のスポーツ文化など十九種目の祭典に四十七都道府県と十二政令都市の選手団の大会である。十月二十一日徳島選手団百八十名は徳島県庁の講堂で結団式を行い、バスで高松へ出発した。

平成五年の東四国国体徳島会場で徳島県の剣道は全国総合優勝の栄光に輝いた。国体開催の徳島と香川は二チーム参加となり、春の予選会で選抜された正員五名と交替選手一名をA組とし、私が監督。B組は勝浦守監督の下、同じく六名が選ばれ、都合十四名の陣容である。二十一日は小豆島の「土庄」に宿泊し寝食を共にして希望の第一夜が明けた。

二十二日朝、島を離れ午後一時高松市の県営野球場に常陸宮御夫妻をお迎えして総合開会式が行われた。選手団七千人が郷土色豊かなユニホーム姿で入場行進を行って中央に整列、招待者、観客合わせて一万八千人が参加し華やかな開幕となった。

大会長平井知事の歓迎の言葉があり、常陸宮様は「わが国は世界一の長寿国です。この『ねんりんピック』によって健康でやすらぎと生きがいのある長寿社会を実現しましょう。」と述べられた。続く中学生の創作舞踏「大連獅子」などのアトラクションが華やかに展開されて選手、観客から喝さいを浴びた。場外へ出ると輸送バスが待機しており宿舎「オークラホテル丸亀」へ送ってくれた。

近代的な偉容を誇る高層ビルの三階に本県の剣道チームが一至二人宛割り当てられた。午後五時、明日の剣道交流大会の監督会議がこのホテルであり勝浦監督と二人で出席した。翌十三日は剣道交流大会である。迎えるバスで丸亀市民体育館に着く。わがA組は第一試合場、予選リーグは千葉県と仙台市である。B組は第四試合場福井県と宮城県と対戦。

A組は早くも二回目に千葉県と対戦した。先鋒馬場力、次鋒西山勝喜、中堅松本英雄、副将早川一也、大将西野四郎の順で交替選手として中西敏治が控えている。相手は関東の雄で流石に強い。勝者数二対一で引き分けが二人である。惜しくも初戦を飾れなかった。次の順番は十二回目で先鋒の馬場選手が交替選手とかわりまずと自主的に申し出た。厳しい予選を経た栄位を剣友に譲ろうという同志愛は尊い。感激の思いで中西選手の出動を促す。仙台市の試合は全員活気あふれる攻撃で勝者は回数だが勝本数は五対三でありリードを奪って仙台市を降す。結局、仙台市と千葉県結果如何と観戦したが接戦となり大将戦で千葉の勝利となりA組は惜しい所で決勝トーナメント進出は果たせなかった。しかし予選二位で監督以下七名に敢闘賞とメダルを授与された。第四試合会場でもB組が第一戦に先鋒森川澄、次鋒佐藤勇、中堅近藤康次、副将山田仁、大将安部金司、交替選手雄西義春で出陣する。四回目に福井県と対戦、全員健闘したが勝者数で敗れた。二回戦の宮城県に対して先鋒の森川選手が交替選手の雄西義春に出場権を譲る美挙があり、総力を尽くして奮戦したが勝運に恵まれていなかった。今次の大会を目ざして県高齡剣友会が一体となり、三回にわたる練習大会を催し、監督選手も万全の稽古の汗を流したが勝利の女神は微笑まなかった。これは監督の不徳の致す所かと反省している。しかるに予選会終了の表彰式で私に選手監督の中で高齡者賞を第一番に頂戴した。

高齡剣友会の一員として光栄の至りであった。監督としての感銘は、出場選手の朝に鍛え夕に鍊った老壯の剣は心技伯仲し、勝敗は紙一重の感じで見事であった。

第十六回全日本高齢者武道大会に参加

徳島県高齢剣友会理事長 西野 四郎

財全国老人福祉助成会主催、全日本高齢剣友会共催の全日本高齢者武道大会が、剣道四一八名、銃剣道二三名、なぎなた一五名、合計六六四名という多数の老剣士が日本武道館に相つどい、若者には負けじという気魄に満ちた老勇姿揃いの大会が今年で早くも十六回を迎え、松島 猛先生に代わり堀ノ内勇吉新理事長が大会運営委員長としての指揮の下、華々しく開催された。

形通り大隈信幸会長のあいさつ、日本剣道形、銃剣道形、なぎなた合同演武、居合道と演武が終わり、13試合場に剣道、銃剣道、なぎなたとそれぞれ定められた試合場に分かれ太鼓の合図で各道一斉に試合が開始された。

徳島からは傘寿組（80歳以上）平岡武雄・特組（75～79歳）蝦名久作・西野四郎・勝浦 守・高橋静夫の四名、A組（70～74歳）吉田 租・早川一也・西山勝喜・岡島茂雄・阿部金司の五名、B組（65～69歳）遠藤一美・阿部三十三・近藤康次の三名、合計十三名が栄冠を目指して堂々の参加である。

高齢者の大会とはいえ全国大会だけに、剣歴が物をいい往年の数多の大会で覇を唱えられたのであろう腕前、技量を十分に発揮し、間の取り方、鮮やかな剣さばき、試合巧者な老剣士との試合が晴れの日本武道館で交剣出来た幸せ……この大会の為に積み重ねて来た練習の成果をこの日にかけてベストを尽くした成績は次のとおりであります。

傘寿組 平岡竹雄 四回戦
特組 西野四郎 三位入賞 蝦名久作 五回戦敢闘賞
勝浦 守 五回戦

A組 早川一也 四回戦 吉田 租 三回戦
B組 遠藤一美 三位入賞（敬省略）

今までのこの大会を振り返ってみて、更に上位を目指す為には、刀流に對する試合に臨んで如何に戦うかの研究が課題であり余程の努力が強いられる。

尚、全日本剣友会の役員が次のとおり改選となりました

副会長 勝浦 守 故清原 栄
理事 西野四郎 中川虎雄
新任者
旧任者



第16回全日本高齢者剣道大会試合風景
西野先生 対 蝦名先生

全日本居合道大会

監督 平 尾 勝 美

第二十九回全日本居合道大会の開催地埼玉県秩父市は、絹織物の産地として有名です。現在でも市内各地に織物工場が、その名残を留めております。

今まで縁遠い土地で詳しいことは余り知りませんでした。訪れて先ず目につくのは巨大な石炭岩の山とセメント工場でした。

秩父は数々の剣豪を輩出し、武道の古里として尚武の誉れ高い土地であり全国大会の開催地として意義深い土地柄であると知らされました。

会場の秩父市文化体育センターは県内最大を誇る近代建築の体育館で非常に明るい会場でした。

厳粛な開会式の後試合開始、本県選手五段の部福井選手は一回戦不戦勝、二回戦では能く落ち着いて堂々の演武を行いましたが残念ながら地元埼玉の小野澤選手に勝利を譲る結果となりました。六段の部岸田選手は一回戦長野の中村選手を2-1で降して二回戦進出、長崎の石橋選手と対戦しましたが健闘空しく僅差で敗退しました。七段の部前田選手は一回戦で茨城の平野選手と対戦し0-3で敗れましたが、平野は優勝戦に進出した強豪で組合せの不運を痛感する一戦でした。

各段共に優勝者は定評ある有名選手ばかりで占められ当然の勝利と申しませうか、収まる所に収まった感が致します。

今後追う者もこれを上回る技量を修得して、その座を交替する日を期待する次第です。最後になりましたが、選手の皆様大変御苦勞様でした。益々の御精進をお祈り致します。

第九回世界剣道選手権大会に出場して

徳島県警察本部機動隊 平 野 誠 司

四月九日、十日、一エモンズ・ハル市はクイベルタン体育館において、第九回世界剣道選手権大会が開かれました。

この大会は三年に一度、会場をアジア・アメリカ・ヨーロッパの三地区から順に選出して行われており、今回はヨーロッパの中からフランス・パリ市が選ばれ、世界三ヶ国三二団体から約六、七百名が参加して行われました。

そして、今回のこの栄えある日本代表選手は、三年前に全国から選ばれた三五名の候補選手が年三回の厳しい強化合宿を行い、また二度の入れ替え等も経験しながら最終的に一二名の選手に絞られていきました。

私は幸運にもこの最終の一、二名の中に残ることができ、今回の代表選手として出場することが決まりました。

その選手は、北海道警 栄花直輝、福島県警 増井将次、警視庁 寺地種寿、警視庁 田島稔、警視庁 岡本和明、神奈川県警 宮崎正裕、大阪府警 石田利也、京都府警 高橋英明、徳島県警 平野誠司、香川県警 松本政司、山形県教員 武井幸三、筑波大大学院生 鍋山隆弘

のとおりで、この中から私は四月九日の個人戦に出場することになりました。そしていよいよ四月五日、期待と不安を抱きながら選手団一行は成田を後にしました。

パリについて最初に肌で感じたのは、その空気の乾きでした。日本にはない乾きで何か息がしにくいなど感じたくらいです。そして、もうひとつ不安であったのが七時間ある時差でした。今回は特に試合まで中三日しかない状況で、選手みんなが本当に不安をもっていたことでもあり、その解消に全力を注ぎました。

また、試合まではホテルに缶詰状態でしたが、練習会場までのバスの中からでもパリの異文化に十分触れることができ、日ごとにその異文化の中に引きずり込まれそうな、日本の文化、剣道が小さくなってしまいそうなそんな不安と葛藤しながら、これが日本の剣道だと心に言いきかせて試合までの調整に集中するように努めました。

また、試合まではホテルに缶詰状態でしたが、練習会場までのバスの中からでもパリの異文化に十分触れることができ、日ごとにその異文化の中に引きずり込まれそうな、日本の文化、剣道が小さくなってしまいそうなそんな不安と葛藤しながら、これが日本の剣道だと心に言いきかせて試合までの調整に集中するように努めました。

また、試合まではホテルに缶詰状態でしたが、練習会場までのバスの中からでもパリの異文化に十分触れることができ、日ごとにその異文化の中に引きずり込まれそうな、日本の文化、剣道が小さくなってしまいそうなそんな不安と葛藤しながら、これが日本の剣道だと心に言いきかせて試合までの調整に集中するように努めました。

また、試合まではホテルに缶詰状態でしたが、練習会場までのバスの中からでもパリの異文化に十分触れることができ、日ごとにその異文化の中に引きずり込まれそうな、日本の文化、剣道が小さくなってしまいそうなそんな不安と葛藤しながら、これが日本の剣道だと心に言いきかせて試合までの調整に集中するように努めました。

また、試合まではホテルに缶詰状態でしたが、練習会場までのバスの中からでもパリの異文化に十分触れることができ、日ごとにその異文化の中に引きずり込まれそうな、日本の文化、剣道が小さくなってしまいそうなそんな不安と葛藤しながら、これが日本の剣道だと心に言いきかせて試合までの調整に集中するように努めました。

また、試合まではホテルに缶詰状態でしたが、練習会場までのバスの中からでもパリの異文化に十分触れることができ、日ごとにその異文化の中に引きずり込まれそうな、日本の文化、剣道が小さくなってしまいそうなそんな不安と葛藤しながら、これが日本の剣道だと心に言いきかせて試合までの調整に集中するように努めました。

また、試合まではホテルに缶詰状態でしたが、練習会場までのバスの中からでもパリの異文化に十分触れることができ、日ごとにその異文化の中に引きずり込まれそうな、日本の文化、剣道が小さくなってしまいそうなそんな不安と葛藤しながら、これが日本の剣道だと心に言いきかせて試合までの調整に集中するように努めました。

このように外国でやる様々な不都合を試合までに一つ一つ取り除き、いよいよ試合当日となりました。

四月九日、個人選手権大会の開始です。個人戦は、まず一三名が三名組の予選リーグを行い、その勝ち上がった七名で決勝トーナメントを戦うようになっており、私は順調に予選リーグを勝ち抜き、決勝トーナメントも勝ち進んでいきました。

結果は次のとおりです。

予選リーグ

○平 野 コメー ストリー

(日本) (ノルウェー)

○平 野 コメー ブジョーヴィンソン

(アイスランド)

決勝トーナメント

一回戦 ○平 野 コメー ベネット

(ニュージーランド)

二回戦 ○平 野 コメー エガートン

(ニュージーランド)

三回戦 ○平 野 ドー J・Y・キム

(韓国)

四回戦 ○平 野 コメー カーネラ

(メキシコ)

準々決勝 ○平 野 コメー 鍋山

(日本)

準決勝 ○平 野 コメー 高橋

(日本)

平 野 コメー 高橋

(日本)

準決勝 ○平 野 コメー 高橋

(日本)

平 野 コメー 高橋

(日本)

結局、高橋（京都府警）が決勝でも二本勝ちして初優勝し、私は二位入賞という結果になりました。振り返ってみますと、外国選手との対戦では、体格とかタイミングとかが違うために日本でやっているようにはいかないうえに、やはりこちらにはどんなことがあっても負けられないというプレッシャーのなかで、なかなか自分の思うとおりの剣道ができなかったように思います。さらに、まわりの観客席は日本の本場の剣道を見ようとする人でいっぱい

です。そのぶん日本選手との対戦となったときに、これが本場の剣道とか、これからが本当の勝負などと、かえって平常心を失ってしまっただように思います。まわりの雰囲気知らぬ間に心の中をそうした心境で支配してしまっただけです。ここら辺りの心の変化は世界大会ならではの難しい一面だろうと思えました。

こうした色々な体験をしながら試合も無事終わり、翌日の団体戦も日本の九連覇で幕を閉じたわけですが、各国のレベルアップは顕著に現れ、特に韓国、ブラジル、台湾等の力は回を重ねるごとに日本に迫ってきているのが現実です。

しかし、我々も決して敗れるわけにはいかない。強化を図り連覇を重ねていくことが最大の使命なのです。今回の貴重な体験や反省をもとに、もう一度初心に返って自分自身を見つめ直し、新たな目標に向かって精進を重ねていく覚悟です。

最後になりましたが、今回の世界大会出場に際しまして、堀江剣道連盟会長はじめ剣道連盟の先生方から物心両面にわたりご支援を賜りましたことに心中より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

全国教職員大会に参加して

川内中学校 白木 洋 一

一、試合結果

一回戦	白木 一	桂川 (岐阜)
二回戦	〃	大向 (岩手)
三回戦	〃	北原 (佐賀)
四回戦	〃	榎 (石川)
準決勝	〃	渡辺 (栃木)
決勝	〃	松井 (北海道)

平成六年八月八日、徳島県選手団は三重県尾鷲市で開催される全国教職員大会に参加すべく徳島を出発した。

教職員にとって、この大会は重要なものであり、また目標とすべきものでもあります。

しかし、そのこと以上に私自身の胸の中には、この大会に向けて「今度こそ！」という強い思いがありました。今まで数多くの強化遠征や強化練習に参加させて頂きながら、十分な結果が出せなかったことを残念に思っていたからです。稽古をつけて頂いた連盟や学剣連、各支部の先生方に対しすこしでも良い結果を出すことで恩返しをしたかったからです。

八月十日の大会当日、個人戦が最初に行われました。一回戦は緊張もあつたせいか延長戦になりました。途中足をくじき「しまった」という思いが頭をよぎったが、足はそんなにひどいものではなく、そのおかげで余分な力が抜けて面を決めて勝つことができました。二回戦は大学の先輩で、胸をかりるつもりで戦い連続に出た面で一本勝ち。三回戦では、今までにない集中した気持ちで自然に面が打て一本勝ち。この試合で打った面をイメージして今も稽古していますが、なかなかできないのが現状です。その試合での集中した気持ちを持統でき、次の四回戦では小手面の二段打ちで二本勝ち。

いよいよ準決勝、体力には自信がある方ですがさすがに疲れがでていました。相手に面を先取された時は弱気になりましたが、団体のメンバーの力強

い応援をうけて何とか逆転勝ちすることができました。

決勝戦、実に準決勝が終わってから三時間くらいの間があり、気持ちを集中するのがとても難しかったのですが、とにかくベストを尽くすことだけを考えました。試合開始一分程度で小手にいて体が止まったところを引き気味に面を打たれてしまいました。

こうして決勝は一本負けで準優勝となったわけですが、この大会では、水産高校時代の恩師福井軍二先生に各試合について頂き、高校時代に戻ったような気持ちで試合できたことも頑張れた大きな要因だったと思います。

これを機会に、これからも正しい剣道を目指し、指導者として自ら日々精進していきたいと思えます。

命にご指導され、多数の高位者、有段者を育成されました。

先生は、「常に道を求め、研究せよ」そして「自分の教え子を自分の段まで育て上げてこそ、恩師に対しての誠の礼である」と、口癖のようにおっしゃると共に実行されました。文字通りの剣道範士でありました。

私が、県剣道連盟会長より表彰楯を受賞した時、清原先生直筆の掛軸を記念にと贈って下さいました。

剣道之事 天下莫偉焉・人鍛錬

廣加萬人 一世化育遠及百世

(訳) 剣道の事、天下にこれより偉大なものはない。一人の鍛錬が広く万人に加えていって一世に及した化育が遠く百世まで及す。

この掛軸の言葉は、清原先生ご自身のことだと痛感しますと共に、先生一世の功績は遠く百世まで伝わることを信じます。

後になりましたが、剣道に深いご理解を持ち、先生と剣道を愛し続けた気立てのやさしいヒデコ奥様の内助の功を忘れてはならないと思います。

最後に清原栄先生の偉徳を偲び、その一端を記し、師弟・同心から先生のご冥福をお祈り申し上げます。

台 掌

武道の指導に一生を捧げた人

藤本常太郎先生の碑を仰ぐ

小松島支部長 田村直一

先生は、美馬郡穴吹町のお生まれで、戦前から小松島町外開二八に在住されていた。

柔剣道に長じた上、棒術、鉄扇、居合術にもすぐれた腕をもたれ、小松島警察署、小松島実業学校、同青年学校の武道教師として熱心に指導教育された。また夜間には、道場を開いて柔剣道を愛好する青少年に積極的に働きかけ、大いに武道振興につとめられた。

昭和二十二年一月顕彰碑が、日乃峯登山口に門下生の手によって建立されている。(昭和二十八年五月二十七日没 七十五歳)

◎藤本常太郎先生之碑



表

柔道教士、剣道練士
天神直揚棒術師
範柳生流鉄扇術師
範無念流居合術師
範之精神館長
元小松島警察署
〃小松島実業高校
〃小松島青年学校
武道教授

裏

昭和二十二年八月吉日建之
門下生一同

高さ二米 幅一・一五米 厚サ〇・二二米
所在地小松島市中田町日乃峯神社登山口
石質御影石

平成六年度各種講習会参加状況 (順不同)

平成六年度春季剣道講習会 H 6・5・15 鳴門武道館

▽徳島支部 西野四郎、柏原浩、馬場力、森川澄、忠津和憲、岡崎明、松村明文、竹村実太郎、近藤康次、土川資雄、糸田川美千男、鈴江俊和、一×× 栗野佳明、吉本繁治、鎌田克臣、清水英典、▽鳴門支部 佐藤勇、伊賀上仙市、堤茂、寺西ひとみ、谷博、▽板野東支部 大野義則、菊川克己、野沢敬夫、江富久雄、武田修典、吉田節雄、亀田秀雄、宮崎益夫、米田利彦、川下正利、▽板野西支部 高田亮、高松実、福永徳、兵頭新平、岡島茂雄、金西重記、加集美由岐、岡田良人、▽美馬東支部 横島保、▽三好支部 徳永賢二、▽麻植支部 松浦政昭、森本武夫、▽名西支部 須見昌輝、▽勝浦支部 大久保喜正、高田雅隆、中根幸治、立岩勝己、倉瀬幸広、戸村博美、▽小松島支部 福山信明、松田敏弘、松本次美、中川義隆、長谷川陽子、梅山寧史、有松京子、富原、美馬敦子、笠原英之、中尾青子、▽阿南支部 尾崎行男、阿部三十三、田中昭次、森真一、平正明、芝原功、藤坂忠彦、反田和則、鎌田吉仁、乾みゆき、土井司、磯田尚文、▽丹生谷支部 宮川昭則、井元幸作、▽海部支部 山崎直光、近藤博文、平瀬彰彦、和田拓男

平成六年度土用稽古 H 6・7・28、30 徳島中央武道館

○3日間

▽徳島支部 大澤孝彰、石井克太郎、勝浦守、西野四郎、田村清憲、柏原浩、勝沼信彦、馬場力、森川澄、松村明文、糸田川美千男、和田正澄、飯田栄一、中西一夫、▽鳴門支部 佐藤勇、▽板野西支部 糸谷文雄、▽三好支部 米代眞治、▽名西支部 白木洋一、▽海部支部 平岡竹雄、▽警察支部 坂下彦之、富田圭介、▽その他 (徳島高) 森本宏教、川村道寛、大内敏行 (徳島市高) 山岸直臣

○2日間

▽徳島支部 堀江幸夫、忠津和憲、二宮治海、森和夫、東内守、森篤史、▽鳴門支部 伊賀上仙市、岡本茂、▽板野東支部 川田武志、野間義明、▽美馬西支部 武岡美智、▽小松島支部 田村直一、▽阿南支部 白木崇、山田

浩司、▽警察支部 松村克隆、▽その他 (城東中) 山岸阿弥彦

○1日間

▽徳島支部 西岡金若、手塚十三子、生田浩章、大野祐吉、河野公雄、玉田晋作、秋山博宣、▽板野東支部 川田圭佑、▽板野西支部 高田豊、兵頭新平、金西重記、▽小松島支部 福山伸明、▽丹生谷支部 吉田租、福多雅英、佐々木和人、▽警察支部 吉田茂生、小坂治、古川久美子

平成六年度秋季剣道講習会 H 6・11・13 鳴門武道館

講師 堀江幸夫、大澤孝彰

▽徳島支部 小川本書、田村清憲、柏原浩、馬場力、森川澄、忠津和憲、橋本武、西岡金若、榎本英夫、岡崎明、磯部洋一、松村明文、福島栄治、玉田晋作、栗野佳明、糸田川美千男、漆川富二、飯田栄一、昇間義行、岩原靖人、▽鳴門支部 山田富康、佐藤勇、伊賀上仙市、菱田晋、岡本康男、松本日出男、岡本茂、野口俊郎、近藤敏晴、ブッセル、▽板野東支部 川田武志、大野義則、亀田秀雄、原田進、▽板野西支部 岡島茂雄、本浄光男、▽阿波支部 塩田善治、長瀬加代子、上藤環、長井薫、▽美馬東支部 大石雅生、▽麻植支部 森本武夫、住友邦昭、▽名西支部 美馬政雄、広瀬清、白木洋一、泊利治、六條一博、松田みつ子、▽小松島支部 堀金實、福多雅英、本田敦彦、澤辺弘美、▽勝浦支部 立岩勝己、高田雅彦、中根幸治、▽阿南支部 福井軍二、大石正志、小延偉公、▽丹生谷支部 西谷肇、▽警察支部 坂下彦之、松村克隆、耶倉文夫、米倉滋、近藤亘、南谷雅彦、古川久美子、富田圭介、▽刑務所支部 北村仁志

平成六年度寒稽古 H 7・1・4、6

○3日間

▽徳島支部 堀江幸夫、勝浦守、西野四郎、柏原浩、森川澄、玉田晋作、手塚十三子、▽鳴門支部 佐藤勇、▽板野西支部 糸谷文雄、▽美馬西支部 武岡美智、▽三好支部 米代眞治、▽名西支部 白木洋一、▽小松島支部 堀金實、松田敏弘、▽阿南支部 中山繁輝、神原常経、▽警察支部 坂下彦之、松村克隆、吉田博文、▽城南高校剣道部、▽徳島文理中学校剣道部

○2日間

▽徳島支部 大澤孝彰、忠津和憲、藤本辰夫、南充美、生田浩章、土井卓、森篤史
▽鳴門支部 藤本雅史、前林利雄
▽板野西支部 岡島茂雄、金西重記
▽小松島支部 福多雅英
▽警察支部 岩木一功、小坂治、南谷雅彦、茨木基良
▽徳島中学校剣道部
▽鳴門工業高校剣道部

○1日間

▽徳島支部 東内勉、鎌田恵、磯部洋一、東徳美、栗野佳明、東内守
▽板野東支部 柳本敏
▽美馬西支部 三好正也
▽阿南支部 遠藤一美、中山啓男、河田清美、株木芳夫、白木崇
▽警察支部 米倉滋、近藤亘、青木博志、吉田茂生
▽徳島東工業高校剣道部
▽生光学園剣道部

平成六年度居合道春季講習会 H 6・4・3 徳島中央武道館

平尾勝美、張野久晴、原田勝、小野寺恒義、高橋憲司、前田健志、野口直之、吉岡修一、松村宏道、岸田光博、坂本憲一、岡田育幸、鈴江正雄、岡田良人、福井勝、吉田正雄、村昌和、佐原兵子、早川幸男、高野康寛、山本正司、新見和彦、四宮博、小引健、中川芳文、森本秀代、西原仁、桑原瑞枝、西條千鶴子、仲稔、吉田節雄

平成六年度居合道秋季講習会 H 6・11・5~6 徳島中央武道館

平尾勝美、張野久晴、原田勝、高橋憲司、前田健志、野口直之、吉岡修一、青木茂生、松村宏道、岸田光博、坂本憲一、岡田育幸、鈴江正雄、岡田良人、丸岡昭仁、斎藤吉明、福井勝、吉田正雄、一村昌和、佐原兵子、早川幸男、高野康寛、満寿良史、枝沢昌和、山本正司、新見和彦、四宮博、桑原栄治、小引健、中川芳文、尾崎憲道、西本忠司、関口公司、桑原瑞枝、森本秀代、川入政利、武田修典、原田進、米田利彦、佐藤眞二、加藤圭貴、入口直幸、中村万里子、西條千鶴子、篠元経夫、生原茂雄

平成六年度 戦いの跡

東義明(川島高)

◇第34回徳島県高等学校総合体育大会
会
(6月4～6日徳農)

第2日目

【男子団体】

▽準決勝 城ノ内5(9)―(0)0城南、
小松島2(2)―(0)0阿南工、川島3(5)
―(3)1東工、富岡西3(4)―(2)1脇町

【女子団体】

▽準決勝 富岡東2(3)―(0)0生光、
川島4(6)―(0)0脇町、小松島2(3)―
(2)2城ノ内、富岡西5(10)―(0)0徳商
第3日日

【男子団体】

▽順位 ①城ノ内3勝 ②富岡西2
勝1敗 ③川島2敗 ④小松島2敗
(勝者数による)

【男子個人】

▽順位 ①高濱(川島)3勝 ②近
藤(城ノ内)2勝1敗 ③弘田(城
ノ内)1勝2敗 ④島本(小松島)

3敗

【女子団体】

▽順位 ①富岡東3勝 ②富岡西2
勝1敗 ③小松島1勝2敗 ④川島
3敗

【女子個人】

▽順位 ①猪尾(富岡東)3勝 ②
陶木(富岡東)2勝1敗 ③大坂
(富岡西)1勝2敗 ④敷田(富岡
東)3敗

◇第23回徳島県中学校剣道選手権大
会
(6月12日(日)鳴武)

【男子団体】

▽準決勝

阿南2―0阿南
市場2―1那賀川
▽決勝
市場1―1阿南

高田

○上田

近藤

藤野

西木

(代表戦)

○西木

▽準決勝

市場2―1阿南
阿南2―1日和佐
▽決勝
市場1(2)―(0)0阿南

〔県内〕

◇第19回会長杯争奪高校剣道大会
(4月17日(日)徳農)

【男子】

▽準決勝

富岡西2(2)―(1)1徳東工
城ノ内3(6)―(2)1阿南工

▽三位決定戦

阿南工2(4)―(3)2徳東工

▽決勝

城ノ内3(3)―(1)1富岡西

○泉

○佐藤

佐々木

日和田

○近藤

▽準決勝

富岡東5(9)―(0)0城ノ内
富岡西5(7)―(0)0小松島

雄(文理高)、泉秀俊(城ノ内)、板

一 村 × 平尾 芙
 江 本 × 松 原
 清 水 × 伊 藤
 多 田 × 平尾 奈
 ○ 畑 山 ココ 山 根

三位 猪尾 満紀 (富岡東高)
 大城 (大体大)

阿南一中 1 | 1 文理 中
 (本数勝ち)
 相生 中 4 | 1 穴 吹 中
 阿南 中 4 | 0 鳴門 中

▽3位決定戦
 近 藤 メメ | 長 谷 川
 △決勝
 門 田 メメ | メ 岩 朝

◇第15回徳島県女子剣道大会

(6月19日(日)中武)

【団体】

▽順位 ①徳島文理大 A ②徳島文
 理大 B ③鳴門教育大

【個人】

▽初段以下の部 ①向井葉月 (四国
 大) ②長井良江 (鳴教大) ③宇
 尾知佐子 (鳴教大)

▽二段の部 ①宮原佳子 (文理大)

②乾弥生 (文理大) ③三木智美
 (鳴教大)

▽三段以上の部 ①木下文江 (徳島
 支部) ②美馬敦子 (小松島) ③
 手塚十三子 (岫雲館)

◇第33回全日本女子剣道選手権大会

県予選

(7月9日(土)県警体)

一位 坪井さくら (富岡東高)
 二位 古川久美子 (県警)

▽準々決勝
 近藤 亘 メメ | 平尾満紀
 (県警) (県警)

阿南一中 3 | 2 市場 中
 (本数勝ち)

▽準々決勝
 市場 中 3 | 1 相生 中
 阿南一中 3 | 2 石井 中
 那賀川中 2 | 1 口和佐 中
 阿南中 2 | 2 山川 中

吉田博文 | 河田清実
 (県警) (阿南)

阿南中 3(5) | (1)1阿南 中
 福 島 | コ 小 笠 ○

▽準決勝
 阿南一中 3 | 0 市場 中
 阿南中 3 | 2 那賀川 中
 △決勝
 阿南一中 2(4) | (1)1阿南 中

福多雅英 ココ | 岩木一功
 (小松島) (県警)

○白浜 メメ | 村 田
 ○敦 賀 メメ | 南 部
 木 村 | × 久 米
 ○門 田 メメ | 横 手

遠 藤 × 平尾 芙
 ○住 友 メコ | 松 原
 米 田 × 伊 藤
 ○乾 メコ | 平尾 奈 ○

▽準決勝
 吉田博文 メ | 近藤 亘
 福多雅英 メコ | 白木洋一
 △決勝
 吉 田 メ | 福 多
 (阿南)

門 田 ド | 瀧 口
 (那賀川)

○乾 メコ | 山 根
 △準々決勝
 畑 山 ココ | 笹 尾
 (市場) (瀬戸)

白木洋一 ツ | 平野誠司
 (名西) (県警)

○門 田 メメ | 横 手

△準決勝
 市場 中 3 | 2 美馬 中
 岩 朝 メ | 近 藤

▽準決勝
 吉田博文 メ | 近藤 亘
 福多雅英 メコ | 白木洋一
 △決勝
 吉 田 メ | 福 多
 (阿南)

門 田 ド | 瀧 口
 (那賀川)

○乾 メコ | 山 根
 △準々決勝
 畑 山 ココ | 笹 尾
 (市場) (瀬戸)

▽決勝
 吉 田 メ | 福 多

長谷川 メメ | 森 野
 (小松島) (鳴門)

○乾 メコ | 山 根
 △準々決勝
 畑 山 ココ | 笹 尾
 (市場) (瀬戸)

▽準々決勝
 吉田博文 メ | 近藤 亘
 福多雅英 メコ | 白木洋一
 △決勝
 吉 田 メ | 福 多
 (阿南)

門 田 ド | 瀧 口
 (那賀川)

○乾 メコ | 山 根
 △準々決勝
 畑 山 ココ | 笹 尾
 (市場) (瀬戸)

◇第48回徳島県中学校総合体育大会

(剣道競技)

(7月25日(月)鳴武)

【男子団体】

▽準々決勝
 市場 中 3 | 2 美馬 中

岩 朝 メ | 近 藤

小 西 メ | 杉 原
 (那賀川) (日和佐)

近 藤 コ | 割 石
 (文理) (阿波)

畑 山 ココ | 笹 尾
 (市場) (瀬戸)

門 田 メコ | 長谷川
 岩 朝 メ | 近 藤

小 西 メ | 杉 原
 (那賀川) (日和佐)

福 永 下 村

(相生) (市場)

檉 本 メー 武 澤

(那賀川) (阿波)

▽準決勝 畑 山 コ 小 西

檉 本 メー ド 福 永

▽3位決定戦 小 西 コメー 福 永

▽決勝 畑 山 メー 檉 本

▽準決勝 畑 山 コ 小 西

檉 本 メー ド 福 永

▽3位決定戦 小 西 コメー 福 永

▽決勝 畑 山 メー 檉 本

▽準決勝 畑 山 コ 小 西

檉 本 メー ド 福 永

▽3位決定戦 小 西 コメー 福 永

▽決勝 畑 山 メー 檉 本

▽準決勝 畑 山 コ 小 西

檉 本 メー ド 福 永

▽3位決定戦 小 西 コメー 福 永

▽決勝 畑 山 メー 檉 本

▽準決勝 畑 山 コ 小 西

檉 本 メー ド 福 永

▽3位決定戦 小 西 コメー 福 永

▽決勝 畑 山 メー 檉 本

▽準決勝 畑 山 コ 小 西

檉 本 メー ド 福 永

▽3位決定戦 小 西 コメー 福 永

▽決勝 畑 山 メー 檉 本

◇第18回徳島県剣道選手権大会

(8月28日(日)鳴武)

【男子の部】

▽初段 ①日和田崇(城ノ内) ②

木村正史(小松島) ③信田卓史

(城南)

▽二段の部 ①原英之(阿南工)

②佐藤智(城ノ内) ③丸岡佳(富

岡東)

▽三段の部 ①富田圭介(県警)

②奥田博志(丹生谷) ③森野喜代

重(阿南)

▽四段の部 ①高科浩之(徳大)

②北村仁志(刑務所) ③武田修典

(板野東)

▽五段の部 ①玉田晋作(徳島)

②山田浩史(徳島) ③猪野和男

(刑務所)

▽六段の部 ①平野誠司(警察)

②白木洋一(名西) ③鈴木伸一

(刑務所)

【女子の部】

▽初段の部 ①西村佳余子(富東)

②芝佳央理(富西) ③井岩絵美

(川島)

▽二段以上の部 ①畑山幸子(富東)

②加集美由岐(板西) ③古川久

美子(警察)

◇第23回徳島県社会人剣道大会

(10月2日(日)鳴武)

▽準決勝

阿 南 A 2 (6) 2 鷲敷振武館

(代表戦)

徳島至誠館 2 (1) 0 徳島刑務所

▽決勝 徳島至誠館 3 (5) 0 阿南支部 A

追悼

◇第39回県下剣道大会(清原栄範士

追悼)

(11月6日阿南工業高)

▽小学校の部 ①大野小 ②延野小

③錬武館少

▽中学校男子の部 ①小松島中 ②

相生中 ③那賀川中

▽中学校女子の部 ①市場中 ②那

賀川中 ③相生中

▽高等学校男子の部 ①城ノ内 ②

富岡西 ③阿南工業

▽高等学校女子の部 ①富岡東 ②

川島 ③富岡西

▽一般の部 ①阿南C ②丹生谷

③振武館

◇第39回徳島県高等学校新人剣道大

会

(11月20日(日)徳農体)

【男子の部】

▽準決勝

城ノ内 4 (6) 0 小松島

富岡 西 4 (4) 0 0 城 南

▽3位決定戦

小松島 3 (7) 3 2 城 南

▽決勝

富岡 西 2 (3) 1 城ノ内

株田 1 メド 三木

○横手 ココ メ 秋山

○西野 × 日和田

○山本 × 谷岡

○藤崎下 × 佐藤

【女子の部】

▽準決勝

富岡 東 3 (6) 1 0 川 島

富岡 西 4 (8) 0 0 小松島

▽3位決定戦

川島 4 (7) 0 0 小松島

▽決勝

富岡 東 4 (7) 0 0 富岡西

○坪井 ドメー 大谷

○賀川 × 芝

○陶木 コメー 河野

○畑山 メメー 藤本

○敷田メー 島田

◇第19回徳島県中学校新人剣道大会

(12月4日(日)小松島中体)

【男子】

▽準決勝

小松島中 1 牟岐中
相生中 3 1 文理中

▽決勝

小松島中5(9) 1 (1)0相生中

○住村 コメ 儀宝

○窪田 メコ 元浦

○播磨 メコ 前田

○清井 メ 田村

○長谷川 ドコ 本田

【女子】

▽準決勝

阿南中 3 1 阿波中
那賀川中 2 1 相生中

▽決勝

那賀川中1(2) 1 (1)1阿南中

○竈上 × 平尾美

○上原 × 森 ○

○佐藤 × 平尾奈

○菱本 × 大黒

○坪井 ドド 小川

◇第12回徳島県スポーツ少年団剣道大会兼第17回スポーツ少年団剣道交流大会徳島県予選会

(12月11日(日)鳴武)

【男子】

▽小学4年生(男・女子)

①中山

希美子(羽ノ浦) ②西岡将(穴吹)

③原祐輔(那賀川)、岸香織(羽ノ浦)

【女子】

▽小学5~6年生

①大西雅照(阿南) ②桶原光謹(阿南) ③石田修士(穴吹)、湯浅智運(那賀川)

▽中学校1~2年 ①儀宝正志(相生) ②尾崎文博(阿南) ③蛭原正基(阿南)、前田悟志(相生)

【女子】

▽小学5~6年生

①榎本美紀(相生) ②北川希依(鴨島) ③河野裕美子(鴨島)、茂村早苗(阿南)

▽中学校1~2年 ①遠藤律子(阿南) ②栗本美香(相生) ③岡崎弘枝(相生)、榎本みくり(相生)

◇第4回全国高等学校剣道選抜大会 県予選

(1月15日(日)徳農体)

【女子団体】

▽準決勝

富岡 東4(8) 1 (0)0小松島

川 島2(3) 1 (1)0富岡西

▽三位決定戦

富岡 西5(10) 1 (1)0小松島

○大谷 ココ 寒川

○芝 メメ 桂

○河野 メメ 谷本

○林 メメ 松田

○島田 ココ 神原

▽決勝

富岡 東4(5) 1 (0)0川 島

○陶木 メ 黄田

○坪井 コ 増田

○賀川 ココ 大森

○大城 コ 妹尾

○敷田 × 井岩

【男子団体】

▽準決勝

富岡 西4(7) 1 (2)0川 島

城ノ内 3(5) 1 (1)1小松島

▽三位決定戦

川 島2(5) 1 (3)1小松島

北岡 ツ 1 ココ 木村 ○

新藤 メ × コ 原

○増田 不戦勝ち

○田中 メ 1 原田

武澤 × 北谷

▽決勝

城ノ内 3(5) 1 (3)2富岡西

三木 1 × 福田 ○

○日和田 メド 1 横手

○秋山 メ 1 西野

○佐藤 1 1 山本 ○

○谷岡 コメ 1 藤崎

◇徳島県小・中学校剣道強化錬成大

会 (7年1月22日(日)鳴農民体)

▽小学校

①大野小 ②阿南少剣

③錬武館、新野少剣

▽中学校男子

①相生中 ②那賀川中

③小松島中、鷺敷中

▽中学校女子

①阿南中 ②市場中

③那賀川中、阿南中

◇第28回徳島県高等学校剣道選手権大会

大会

(7年2月26日(日)徳農)

【女子の部】

▽準決勝

畑 山下 ー 大 谷

(富東)

敷 田 コ ー 坪 井

(富東)

▽3位決定戦

坪 井 メ ー 大 谷

▽決勝

敷 田 メ 畑 山

【男子の部】

▽準決勝

三 木 コ ー 佐 藤

(城ノ内)

藤 崎 メ ー 遠 藤

(富西)

▽3位決定戦

佐 藤 コ 遠 藤

▽決勝

三 木 コ コ ー メ 藤 崎

〔県外〕

◇平成六年度第40回(男子)・第28回(女子)剣道選手権大会

(6月18日(土)・19日(日)丸亀市)

【男子団体】

▽決勝トーナメント1回

高 松 南 2 ー 2 丹 原

(本数による)

琴 平 3 ー 2 城ノ内

【男子個人】

▽準決勝

近 藤 下 松 木

(城ノ内)

松 下 コ 松 原

(高松南)

▽決勝

松 下 コ ー 近 藤

【女子団体】

富 岡 東 4 ー 0 坂 出 商

高 松 南 2 ー 1 高 知 商

▽決勝

富 岡 東 4 (5) ー (1) 1 高 松 南

(8月1日(日)3日(水)富山県庄川町体育センター)

○陶 木 コ メ ー 国 村

○坪 井 メ ー 田 元

○妹 尾 ー コ 友 沢 ○

○敷 田 コ ー 家 入

○猪 尾 メ ー 白 浜

【女子個人】

▽準決勝

陶 木 メ ー 敷 田

(富岡東)

猪 尾 メ ー 大 坂

(富岡東)

▽決勝

猪 尾 メ メ ー 陶 木

(富岡西)

◇国民体育大会第15回四国ブロック大会剣道競技

(7月24日(日)高知県立武道館)

▽成年二部

①香川 ②愛媛 ③徳島 ④高知

▽少年男子

①香川 ②愛媛 ③徳島 ④高知

▽少年女子

①徳島 ②高知 ③香川 ④愛媛

◇平成六年度全国高等学校総合体育大会第41回記念全国高等学校剣道大会

(8月1日(日)3日(水)富山県庄川町体育センター)

【男子団体】

▽予選リーグ 城ノ内高予選落ち

【男子個人】

▽1回戦 近藤正章 ー 徳山孝洋

(大分)

▽2回戦 高濱慎也 ー 友枝誠

郎(阿蘇)、近藤メ ー 立川恵吾

(中府商)

▽3回戦

近藤 コ ー 井上伸 (清風高)

▽4回戦

近藤 ー 下川和秀(南筑)

【女子団体】

▽決勝トーナメント1回戦

富 岡 東 高 3 ー 0 五 泉 高

(茨城)

▽決勝トーナメント2回戦

富 岡 東 高 1 ー 4 長 崎 西 高

【女子個人】

▽1回戦 猪尾満紀メコ ー 河端美帆(北陸)、陶木りえメ ー 池田浩美(盤田西)

▽2回戦 猪尾メ ー 佐々木純恵(青森)、陶木ドド ー 角田美奈(前橋商)

▽3回戦 猪尾 ー ココ甲斐真琴(高千穂)、陶木 ー メ荒川亜希子(左沢)

◇第11回全国家庭婦人剣道大会

(8月2日(火)日本武)

▽予選リーグ

徳島 1(2) | (4) 2 東京 A

美馬 × 大島

○白木 メメ | コ 別府

手塚 | コ 藤井 ○

有松 | メメ 山口 ○

中尾 × 荒武

徳島 0(1) | (6) 4 分

美馬 | コ 田島 ○

白木 | メ 北村 ○

手塚 メ × メ 竹村

有松 | メ コ 土川 ○

中尾 | コ 中村 ○

◇第36回全国教職員大会

(8月10日(水)尾鷲市)

【団体】

福岡 2 | 1 徳島

【個人】

▽高校・高専・大学・教委の部

長田晋作

▽中学の部

準優勝 白木洋一、川内中

▽幼・小学校の部

松本

◇第33回全日本女子剣道選手権大会

(大阪府守口市市民体育館)

▽決勝トーナメント1回戦

高田 智子 メ | 坪井さくら

(大阪)

◇第40回全日本東西対抗剣道大会

(9月25日(日)山口県スポーツ文セン

ター)

29将 近藤ヒツ | 進藤正広

(秋田)

◇第49回国民体育大会

(10月30日~11月2日愛知県西尾市)

【少年女子】

▽3位決定戦

徳島 4 | 1 長崎

○陶木 コ | 畑津

○坪井 メコ | 千代田

大坂 | コ 吉野 ○

○敷田 メ | 中村

○猪尾 メメ | 渋谷

▽2回戦

山本雅彦 コ | 吉田

◇平成7年四国管区内剣道選手権大会

(7年3月3日(金)四管警学

校)

【無差別】

▽決勝

吉田茂生 メ | 旭

(徳島) (香川)

▽1回戦

吉田博文 反 | 谷裕一

(東京)

平成六年度 剣道・居合道昇段者名簿

平成六年度

平成五年

4月29日

▽初段 【剣道】

松瀧井小伊加瀬三西西三上永楠吉岡富六中河
田口上笠勢統川好前木浦田井本田崎山條武憲司典
陽貴健和二朗規司幸高平治也明史弘明史志典

平成六年

4月29日

▽初段 【剣道】

松永川渡窪播嶋蛇大藤真石長谷松河佐高住森田
本田又辺田磨崎原坂野鍋本本川永野藤見村本村大
潤志吾司二典猛基右弘人洋紀史和徳也昌也

立花船江仁渡市原塩岩鈴小内日堀岩高佐吉寶榎田近原金
石岡田川木辺原田田山江笹田裏本瀬田藤秀裕紀之陽大資
大祐憲祐将健浩一之志周夫耕秀浩博徳樹史之陽資大輔
介貴司創昭行二之志周夫耕秀浩博徳樹史之陽資大輔
秋堀十占松横市熊村笹酒立天久林多菱山柚井岡石久株松ノ
田本川田田瀬原谷田尾井石羽保田本根友口田直和米田主内
香くる美紀子佳佳紀己みゆき有代里美織いっか矢梨希一明仁樹彦司悟志
織

古鳥 シツエ

5月7日

▽六段 【剣道】

森西敏直行

5月8日

▽七段 【剣道】

森川澄

▽教士

坂本信幸

▽錬士

佐賀博史

5月15日

▽六段 【剣道】

村井正志

5月29日

▽二段 【居合道】

笠井真人

堀江直也

谷直樹

矢間大資

吉坂保徳

小川瑞生

三好敏夫

木村和代

松橋麻美

西森健

大道史雄

武田修典

松田敏弘

岡藤富西岸日塩藤岸坂岩牧為斉野藤竹黒谷西福日北糸大藤吉▽
田本永野浦田本義本朝本行藤張井内川村孝永野岡林道史賢初段
元健哲裕弘雄義本朝本行藤張井内川村孝永野岡林道史賢
武一将史平樹三治圭樹志夫吾志介淳貴泰晃功勉三志郎輝史

6月26日

▽初段 【剣道】

吉田賢史

藤林史郎

大田史郎

糸林剛志

北岡良三

日野浦良

福永晃

西岡孝

谷村泰

黒川友

竹内友

藤井陽

野張貴

森坂谷遠岩藤寺丸岡古田森田長谷大藤酒長増吉谷稲堀原川細高豊勝井木
東崎藤崎本西岡本島中田森田中谷川岩田藤町田田博陽智也二治強輔明也弘哉一
知亜山真里子保己稔仁人昭児一徳樹志昭矢樹彦文平也二治強輔明也弘哉一



第3回全国高等学校剣道選抜大会 2年連続第3位に入賞した富岡東高選手団



全国教職員大会 (個人) 2位 白木選手

第9回世界剣道選手権
第3位 平野選手



ねんりんピック '94
香川剣道交流大会

▽六段
【居合道】
坂本憲

7月17日

住友 佐和子
川口 あかり
近藤 知恵子
原田 麻美子
美保 礼子
小田 紀子
小林 佳奈
坂口 由香理
武知 綾
盛友 美
篠原 直子
加渡 一恵
喜多 和江
斎藤 照美
黒下 直紀
楠 亜樹
米澤 稔子
▽二段
吉本 崇央
野上 敦司
田村 聡
淀村 泰照

9月4日

【剣道】

▽初段
田村 健
森 裕朗
藤枝 義明
浜口 隆司
川原 拓也
中原 将規
中田 将規
尾田 光志
株田 知到
木下 勝彦
上地 智博
大下 順也
山岸 阿弥彦
中村 卓矢
江口 大祐
吉田 直正
添木 崇志
本英 秋志
芝野 大祐
寺野 大誠
前田 悟志

8月28日

【剣道】

元浦 孝文
原田 靖宏
儀宝 正志
小笠 航
芝原 勇
今川 幸治
富永 英樹
辻高 明
大栗 隼人
橋本 慎一郎
酒井 慎一
中村 道浩
梅田 正樹
森 英雄
富永 慎二
湯浅 博文
森 憲二
正瑞 和弘
藤本 政志
本見 克祉
宮内 進二
福岡 貴徳
浜口 修二
岸田 光央
日裏 涼太
加藤 涼哉
渡辺 辰毅
原 辰毅
佐藤 清
井出 賀奈子

9月25日

【剣道】

▽二段
丸本 怡司
明口 豊
藤川 拓也
横手 慶人
住瀬 悟史

榎本 みくり
星野 佳世
田中 愛
住友 未来子
武智 有香
竈上 恵子
坪井 あき
北川 真衣
山中 かおり
山田 香織
原田 留美
上原 留美
横山 夏海
池本 渚
藤崎 蘭
佐藤 友美
岡崎 弘枝
土橋 由佳
武沢 美香
安山 花子
板東 穂

近藤 正和
藤尾 二
瀬本 典之
橋本 誠
数藤 弘
八上 雅弘
井岡 明徳
加集 伊織
森本 伊充
近藤 武史
仁木 隆夫
喜多 拓人
福田 勇至
福田 光佑
中村 健一
原田 憲一
株田 憲一
宮城 真伸
山中 真司
山田 靖人
西村 佳余子
大坂 尚子
大谷 陽子
仲村 亜美
賀川 由美
藤本 真理子
米沢 直美
林 理恵
平尾 沙海
坪井 さくら
榊原 美穂
井若 絵美

▽初段
【剣道】

10月30日

▽五段

須見 昌輝
古川 久美子
富田 圭介
宮本 賢作
▽四段
大城 夏子
今井 多栄子
酒卷 裕美
猪尾 満紀
山田 正己
黒田 昭長
長富 昭助
松原 健洋
河内 圭司
大城 圭司
島本 剛直
金田 剛史
伊丹 誠二
▽三段
坂本 真理
宇尾 知佐子
正木 順子
大城 照美
藤嶋 由記

小森 直樹
杉本 直樹
森脇 誠
木谷 真人
富原 正敏
向井 公紀
一井 健治
中川 尚貴
増田 弘明
西岡 茂雄
片山 武紀
布施 亮平
谷口 智映
吉岡 智孝
小岡 正人
岡元 康博
尾崎 文夫
谷岡 和夫
勢井 憲彰
横坂 幸憲
坂本 幸憲
一山 大地
植松 太郎
久岡 靖大
谷口 拓之
小森 拓元
森下 泰治
江上 信治
河野 朋光
金國 秀俊

河内愛	酒卷忠子	鈴江裕佳	森本千秋	村上友美	小川絵奈	福山景子	志内理恵	藤井英子	山田由香	小川奈都	豊田ゆり	海原久美子	有待ゆかり	砂崎紫	七田真美	大黒真由子	平尾奈海	平尾美海	服部茜	山本光男	堀川修	福永浩	廣川雅祥	佐藤紀秀	福島由博	栗谷洋郎	笹尾幸司	岡元大助	山本昇司	
古田博文	白木崇	▽六段	【剣道】	11月20日	▽六段	【居合道】	岡田育幸	▽六段	【居合道】	11月19日	11月19日	早川幸男	高野康寛	▽五段	親見和彦	四宮博	▽三段	森本秀代	西本忠司	関口公司	▽二段	川人政利	【居合道】	▽初段	11月6日	11月6日	矢野裕子			
			坂本憲一	▽錬士	【居合道】	佐藤憲治	北條憲治	▽教士	青木博志	▽錬士	【剣道】	11月30日	小野寺恒義	木原資裕	中山繁輝	▽七段	【剣道】	11月29日				糸谷文雄	▽六段	【剣道】	11月28日	11月28日	竹村英信			
住友久夫	野々宮武史	古山有義	森篤史	中川勝弘	有友耕太郎	門田将弘	山地丈夫	小池丈夫	浅川広徳	稲岡芳晃	河野史明	森信之	賀川敏史	森本修一	小笹大輔	山崎篤史	▽三段	株木葉子	中野彰子	芝野佳央理	蔭野由紀子	マーク	フエネリ	喜多弘	明石守弘	▽二段	【剣道】	12月4日		
笹文	横山浩巳	勝田邦男	寒山健志	水口正治	山下弘行	新居明典	長谷川典	▽初段	【剣道】	2月5日		加納忠義	松本日出夫	近藤敏晴	▽五段	乾みゆき	佐々木武夫	鎌田克臣	田中幹人	清水英典	半井大輔	▽四段	吉田光子	斎藤厚子	佐藤美幸	妹尾かずみ	高木理佳	大坂佳世		
新居典子	鈴木加奈子	宮崎由梨	森万里子	清水紫	長井江	岸雅代	神谷季公子	井内弘実	江本早苗	佐々木洋子	福本京子	兵頭美樹	葉坂麻衣子	横山絵里	三宅恵美子	下村純子	市塚涼子	市原加菜	白井裕子	笹部いつか	矢野明香	上野幸子	新居左知子	竹内梨佳	渡辺剛弘	川尻良太	濱野誠	岸篤司	元木智大	
長井良江	久米嘉奈子	市橋尚子	上久人未	榎内占都子	大森りえ子	川人政利	三好巨	前川英弘	中村秀弘	原田武史	信田卓史	丸橋達也	篠原達也	宮田健太郎	新井温人	坂井純	藤本大策	門田隆文	▽二段	【剣道】	2月19日			スローム・トリルビー	加集綾香	荒川公美子	白浜真紀	中村美樹		
			梅山寧史			▽四段	島田英人	赤川ゆかり	小川仁美		森ひろみ	大森ゆり子	久保勝義	坂本洋二	六條俊一郎	野口善	大森弘善	菱田直樹	由金直樹	伊藤滋朗	湯浅一浩	岸上孝司	篠原永光	天野一志	小笠原卓	▽三段	和田法子	大森庸子	片山千鶴	

徳島県剣道連盟事務分掌表 (平成七年四月一日現在)



編集後記

平成六（一九九四）年度の社会の推移を概観すると、四月には、細川首相は、資金運用にからみ四月二十五日に、細川内閣は総辞職し、羽田内閣が発足した。

五月には、ブラジルの世界的カーレーサー、アイルトン・セナ選手が、イタリアで開かれていたF1シリーズ第三戦でカーブを曲がりきれず壁に激突し死亡した。

六月には、羽田内閣総辞職。同月二十七日には松本市の住宅街で深夜、有毒ガスを吸ったとみられる症状を訴えて倒れ、住民七人死亡、多数の人が病院に収容された。長野県警捜査本部と同県衛生公害研究所は猛毒の神経ガス「サリン」と推定される物質を検出したと発表した。

村山内閣成立する。社会党首相は片山哲内閣以来四十七年ぶり。

七月には、北朝鮮の最高指導者金正日成主席が、心筋梗塞のため死去した。

八月三日には、全国警察防犯少年武道大会が東京で開催されたが、その口、観測開始以来の最高気温で、東京では三九・一度を記録した。

気象庁では、七月からの平均気温が二度高いことがわかり「戦後最も暑い夏」と宣言した。各地では異常渇水が発生した。

スポーツ界では、アメリカのプロ野球大リーグがストに突入した。

九月には、プロ野球オリックスのイチロー選手がシーズン最多安打日本記録を達成した。

十月には、北海道東方沖を震源とするマグニチュード八・の地震が発生し、死者はなかったが、二百数十人が負傷し、鉄道、道路にも被害がで、北方領上では死者がでたほか、多数の建物が倒壊した。

十一月には、小選挙区区割り法案

が成立した。大卒の就職率過去最低、特に女子への影響は大であった。

貴乃花、横綱に昇進。

十二月には、学校内いじめ問題が深刻化した。二十八日には三陸沖を震源にマグニチュード七・五の地震が発生し、死者二名、負傷者が多数でた。

平成七年一月十七日午前五時四十分分に阪神・淡路大震災が発生した。震源は淡路島北東約三キロ、規模はマグニチュード七・二（最大震度は七）。二月一日現在死者五、四三二人、負傷者三二、八九八人におよぶ甚大な被害をうけた。

三月には、東京地下鉄「サリン」事件が発生し、多数の死者、薬物中毒者をだした。

平成六年度は、一見平穏に見えるようですが、何か不安を抱いているように感じています。

剣道において、富岡東女子は、平成六年三月全国高等学校剣道選抜大

会第三位、わかしゃち国体少年女子第三位の成績をあげた。

県警機動隊平野誠司選手は、フランス・パリで開催された、第九回世界剣道選手権大会個人において第二位の成績をおさめた。

川内中学校白木洋一選手は、第三十六回全国教職員剣道大会個人中学校の部において第二位の成績をおさめた。今後の活躍をお願いいたします。

阿波支部長の坂本先生には貴重な資料を原稿にして頂き、お礼申し上げます。

明治天皇の御製に、

暇無き身も朝夕にいそしみぬ

おもひ入りたるみちの為にはというのがあります。忙しい仕事の中、少しでも時間を作っていたら、おもしろい入りの剣の道にいそしんでいただき、平成七年度の会員の皆様

の活躍を祈念いたします。

発刊日 平成七年五月三十一日
発行所 徳島県剣道連盟
編集 徳島県剣道連盟広報部
印刷所 グラウンド印刷